地域類型別にみた高等学校の適正規模に関する総合的研究

教育社会学研究室

清水義弘　松原治郎　潮木守一
新井郁男　小野　浩　菊池城司
武内　清

A Study on Appropriate Size of Upper Secondary Schools in Selected Areas

Yoshihiro SHIMIZU, Haruo MATSUBARA,
Morikazu USHIOGI, Ikuo ARAI,
Hiroshi ONO, Jyoji KIKUCHI and
Kiyoshi TAKEUCHI

Last year, the results of a historical and regional analysis of school size and those of a questionnaire survey administered to teachers and students in upper secondary schools of different sizes were reported in this bulletin. The number of the survey object was 1881 students, 13 upper secondary schools which were situated in various types of areas.

This year, in light of the results of the survey of last year, we conducted the survey in larger scale, withimproved questionnaires.

We set up three type of areas, that is, the densely populated areas, the moderately populated areas, and the sparsely populated areas, and for each area and upper secondary school we conducted the community survey and the school survey, The number of the survey object was 46 upper secondary schools, and the number of the students who answered this survey was 6,346.

Introduction. A Study on the Appropriate Size of Upper Secondary Schools.
First Chapter. Purpose of the Survey and a Conceptual Framework.
Second Chapter. The Factors Related to the School Size of Upper Secondary Schools.
Third Chapter. School Size and School Type.
Fourth Chapter. School Size and School Life.
Fifth Chapter. School Size and Student Sub-Culture.
Sixth Chapter. School Size and School Management.

序　高校の適正規模研究について
Ⅰ　調査研究の概要
Ⅱ　高等学校の学校規模に関連する要因
Ⅲ　学校類型別にみた学校規模の影響
Ⅳ　学校規模と高校生活
Ⅴ　学校規模と生徒文化
Ⅵ　学校規模と学校経営

序　高校の適正規模研究について

昨年「過密地域における高等学校の適正規模に関する総合的研究」というテーマで，学校規模の歴史的地域的分析および学校規模の異なる高校の生徒教師を対象とするアンケート調査の結果を，本紀要に報告した。昨年度は，過密県（東京都，千葉県）9校，過疎県（福島県，佐賀県）4校，あわせて13校，1,881名の生徒を対象にする調査であったが，今年度は，昨年度の結果をもとに，調査項目を修正し，調査規模も拡大し，調査を実施した。

過疎地域（秋田県，福島県，富山県），過密地域（東京都，愛知県），中間地域（静岡県）の3類型を設定し，それぞれの地域と高校について，地域社会調査，学校調査（校長，教師，生徒）を実施した。対象は46校で，アンケート調査に回答のあった生徒数は，6,346名である。

結果の詳細は以下に報告するが，高校教育が普遍化する中にあって，高校の学校規模の問題は，他のさまざまな社会的文化的組織的要因と関連して，複雑な様相を呈している。本研究が，今後の高校研究の一里塚になれば幸いである。

なお，本調査研究は，昭和51・52年度文部省科学研究費により実施したものである。　（清水義弘）

Ⅰ　調査研究の概要

この調査研究は，昨年の『紀要』第16巻に「過密地域における高等学校の適正規模に関する総合的研究」と題して発表した論稿の調査研究に検討を加えながら，対象を地域類型を考慮して拡大したものである。

研究の目的，枠組，内容などは昨年述べたところと殆んど変わらないので今回は省略する。昨年やったことを要約すれば，最近過密地域において住民の教育需要に応ずるために，主に地方自治体の行財政的見地から高校が大規模なものにされる傾向がみられるが，われわれは，学校の規模は教育指導面や生徒の学校生活にどのように関連し影響を及ぼすかという見地から学校の適正な規模を考えてみようとしたのである。そこで，生徒と教師（各校1名）を対象とし，調査票の作成に当っては，過密地域のいわゆる大規模校の場合は，規模との関連やその影響はかなりストレートに教育指導面や生徒の学校生活に表われると想定した。また，その間に介在する要因としては学校側の経営努力や学校文化を想定した。なお，調査対象は東京都内5校（1学年当り7学級2校，9学級，7学級，5学級各1校），千葉県内4校（8学級3校，9学級1校），福島県内2校（8学級と9学級），佐賀県内2校（8学級と10学級），いずれも普通科の2年生計1,881名であった。集計結果を分析してわかったことは，まず第一に，1学年当たり9～10学級というような大きな学校では，学校内の人間関係が比較的疎遠で，それは端的に生徒同士の関係にあらわれて，生徒相互の親密度が薄い，ということである。第二は，学校や教師への親しみ，学校生活への満足度などは学校の規模よりも，それぞれの学校の経営努力，学校文化との関連が強いことである。一般に，クラブ（部）や生徒会，

表Ⅰ－1　調査対象の内訳*（地域類型別・県別・学校規模別）

地域類型	県 ＼ 学校規模**	2～5学級	6学級	7学級	8学級	9～10学級	計	生徒数
＜過　疎＞	秋　田	3校	—校	1校	2校	3校	9校	1,169名
	福　島	2	—	—	1	3	6	794
	富　山	1	3	—	4	—	8	1,123
＜中　間＞	静　岡	1	2	4	3	—	10	1,536
＜過　密＞	愛　知	2	1	1	2	3	9	1,176
計		9	6	6	12	9	42	5,798

* 東京都内の私立高校4校，生徒数548名はふくまれない
** 学校規模は1学年当たりの学級で示す

ホームルームの活動を重視する学校では学校や教師に対する親しみや満足度は高く，勉強や受験への傾斜の大きい学校では教師や学校に対する反発が強いという結果がみられた。

以上，昨年やったことを極くおおまかに要約したが，学校の規模との関連やその影響は調査設計の当初想定したようにはストレートには表われなかった。またそれをうんぬするには調査を実施した学校数が少なすぎた。そこで，調査票の構成や設問に検討を加えるとともに，学校数をふやすことによって，経営努力や学校文化などの関連を考慮しながら学校の規模について論ずることができるようにしようとしたのが今回の調査研究である。

多くの学校で調査を実施しようという場合に，同一地域（県）内でさまざまな規模の学校を選定するやり方がかんがえられるが，われわれは今回は，＜過密＞・＜中間＞・＜過疎＞の三つの地域類型を想定し，46校，6,346名の生徒を対象に調査を実施した（東京のみ私立高，その他は県立高校，普通科２年生）調査時期は昭和51年11月～12月。調査方法は一斉自記方式。集計は，東京大学大型計算機 HITAC 8800/8700，SPSS を使用した。表Ⅰ－１はその内訳である。　（小野　浩）

Ⅱ　高等学校の学校規模に関連する要因

昨年，今年と２回の調査の集計結果を分析する過程で痛感させられたことだが，学校規模の数字は単に，物理的あるいは空間的な一定の状況を表示する数値ではなく，県の教育行財政の方針，各学校の歴史や所在地の条件など，さまざまな要因の関連状況のシンボルのようなものである。以下ではこの点を考えてみたい。

〔１〕　学校規模別構成の公・私立間比較

表Ⅱ－１は，今回調査を実施した５県と，参考のために＜過密＞地域である東京都と神奈川県，計１都６県の全日制の高校を公（都・県・市）立・私立別に学校規模（昭和50年５月１日現在の生徒数を，１学級45人として１学年当たり学級数に換算した数値）別に集計した結果である。

これでみると，公立校の場合，大きな学校といっても１学年当たり10学級どまりである。それ以上大きい学校がある場合でも，最も多い愛知で全体の12.8％である。東京，神奈川もいれたこの１都６県に関する限りでは，地域類型別にみて，11学級以上の大きい学校の占める割合が高いのはむしろ＜過疎＞地域である，といえそうな結果が出ている。

この学校規模別集計について各都県の最頻値をみると，秋田・富山では５～６学級規模，福島・静岡・愛知では７～８学級規模，東京・神奈川では９～10学級規模である。つまり，秋田・富山では５～６学級規模の学校が多くを占めるかたちで，また福島・静岡・愛知は７～

表Ⅱ－１　公私立別学校規模別構成

地域類型	都　県	学校規模* / 公私立	2～4学級	5～6学級	7～8学級	9～10学級	11学級以上	計
＜過疎＞	秋　田	公　立	4.1	36.7	28.6	22.4	8.2	100.0(49)
		私　立	—	20.0	—	20.0	60.0	100.0(5)
	福　島	公　立	14.3	22.1	40.3	13.0	10.3	100.0(77)
		私　立	12.4	18.8	25.0	25.0	18.8	100.0(16)
	富　山	公　立	19.5	36.9	30.7	12.9	—	100.0(39)
		私　立	28.6	—	42.8	—	28.6	100.0(7)
＜中間＞	静　岡	公　立	2.5	21.8	51.3	23.1	1.3	100.0(78)
		私　立	8.4	19.4	25.0	11.1	36.1	100.0(37)
＜過密＞	愛　知	公　立	5.8	14.8	44.1	22.5	12.8	100.0(102)
		私　立	—	13.0	8.7	8.7	69.6	100.0(46)
	神奈川	公　立	19.6	13.4	22.7	42.3	2.0	100.0(97)
		私　立	20.3	18.9	14.5	13.0	33.3	100.0(69)
	東　京	公　立	8.0	19.1	25.3	46.9	0.7	100.0(162)
		私　立	16.4	22.4	18.1	15.1	28.0	100.0(232)

＊ 学校規模は１学年当たりの学級数で示す

8学級規模の学校が多くを占めるかたちで，いずれにしても1学年当たり8学級規模までの学校で7～8割（富山では9割に近い）を占めている。また東京，神奈川では9～10学級規模の大きな学校が多くて，全体的に大規模化へ傾斜しているが，それでも10学級規模までにとどめられていることが歴然としている。

以上のような公立校の場合と比べて私立校の場合に注目をひくのは，11学級以上規模の学校の占める割合が大きいことである。私立校の絶対数が少ない秋田・富山は別として，福島19%，静岡32%，愛知70%である。愛知の70%というのは学校数にして32校であるが，このうち12校は15学級以上である。公・私の対照性が顕著である。これは愛知と同じく<過密>地域に属する東京・神奈川にもみられる。

以上のように，われわれが調査を実施した5県の公立に関しては，大きくても1学年当たり10学級の規模にとどまっているのは行政のコントロールによるのであろう。参考のために引いた東京・神奈川の状況はこうした推測を裏付ける一つの根拠となるように思われる。つまり，経験的に，大きくしてもそのことによる悪影響がストレートには顕在化しない<許容限度>がそこにあるということではないだろうか。このように推測することが当っているとすれば，この<限度>内で対象（つまり公立校）を選んだわれわれの調査の結果を分析してみても，学校規模との関連やその影響がそうストレートにあらわれていないのは，むしろ当然だということもできよう。そして，行政当事者によって経験的に処理されてきたことに対してわれわれの調査研究は一定の裏付けを与えたことになる，ともいえよう。――われわれの研究目的からいえば，以上のようなことを述べて終わってもいいわけであるが，高校について，その規模，特に大規模校であることとの関連や影響を問題にしてきた立場でいえば，この問題をさらに追究するためには，極めて大きい学校から小さい学校までさまざまの規模のものを含む私立校を調査の対象とする方がいいかもしれない。しかし，他方，私立校の場合には公立校の場合にくらべて<学校文化>がはるかに多様化しているわけで，それをどうコントロールして規模との関連や影響をとり出すかという別の難問にぶつかることが予想される。学校規模の問題は当初考えていたよりはるかに難しい。

〔2〕 学校規模に関連する要因

学校の所在地を郡・市別に分けると，一般に市部に多いのは当然だが，2～6学級規模では約6割が郡部，7～8学級規模では富山・静岡・愛知で約9割が市部（秋田は43%，福島は66%で，この割合が小さい），9学級以上の規模の学校はほとんどが市部にある（郡部にあるのは福島で2校，富山・静岡で各1校くらいのものである。）

学校の設立年次を，「明治」「大正・昭和戦前」「昭和戦後」に3分し，学校規模ごとに算出した設立年次別構成比率のうち「昭和戦後」の比率だけを掲げたのが表Ⅱ－2である。

表Ⅱ－2　「昭和戦後」設立校の比率」

県＼学校規模*	～6学級	7・8学級	9学級～
秋田	75.0%	14.3%	13.3%
福島	62.1	27.6	10.5
富山	50.0	33.3	40.0
静岡	33.3	31.6	22.2
愛知	61.9	53.3	55.5

* 学校規模は1学年当たりの学級数で示す。

<過密>地域・愛知ではどの規模でも過半数が戦後の設立である。これと対照的なの<過疎>地域の秋田・福島で，2～6学級規模だけに戦後設立校が多く，それより大きい規模では戦後設立校は少ない。つまり設立年次の古い学校が大きい学校になっているわけである。

進学希望率→「進学校」　各校および県全体（県・市立校）の50年3月卒業予定者の進学希望率を算出し（資料は『リクルート・高校総覧1976年版』），県全体の進学希望率より高い進学希望率の高校を「進学校」として，学校規模ごとに「進学校」の比率を算出した。

表Ⅱ－3にみられるように，静岡の場合は7～8学級規模の「進学校」率が最も高いが，他の4県ではいずれも9学級以上規模校が最も高い。

表Ⅱ－3　「進学校」の比率

県＼学校規模*	～6学級	7～8学級	9学級～	県全体の進学希望率
秋田	0.0%	14.4%	66.7%	24.5%
福島	13.8	24.1	84.2	35.1
富山	45.5	41.7	100.0	51.3
静岡	9.5	57.9	55.6	44.2
愛知	4.8	40.0	69.4	43.1

資料『リクルート高校総覧1976年版』
* 学校規模は1学年当たりの学級数で示す

以上のように，学校の所在地，設立年次，進学希望状況といった，既存資料の入手できる少数の要因について

表Ⅱ－4　調査対象校の設立年次別・規模別・進路希望別配置

学校規模* / 進路希望** / 設立年次	2～5学級			6学級			7学級			8学級			9～10学級		
	国公立志向	私立志向	就職志向	国公立志向	私立志向	就職志向	国公立志向	私立志向	就職志向	国公立志向	私立志向	就職志向	国公立志向	私立志向	就職志向
明治	富G	***		富H			静A			秋D 富A 富E			秋A 福D 愛A	秋B 福A	
大正 昭和戦前			福B			愛I 静C		秋E	静I	富B 愛H 静G	秋F 福C	愛F		福F	
昭和戦後		愛B	秋G 秋H 秋I 福E 愛C 静F	富D 富F		静J		愛D 静B 静E		富C 静D		静H	愛E	秋C 愛G	

* 学校規模は1学年当たりの学級数で示す

** 進路希望

「国公立志向」：本調査による国公立4年制大学希望率　70％以上

「私立志向」：　〃　30～69％

「就職志向」：　〃　29％以下

*** 秋：秋田　福：福島　富：富山　静：静岡　愛：愛知

アルファベットは単なる符号である。各校のイニシアルではない

みても，そのありようは学校規模によって異なる。そこで，例えば，9学級規模のある高校の教育指導や学校生活はどうか――と考える場合には，「学校が大きい」ということのほかに，その学校が「市部にある」，「設立年次が古い」，」進学希望者が多い」といった要因についても同時に考慮を払わなければならないわけである。

表Ⅱ－4は，以上のような考えから，今回の調査対象の校を，学校規模のほかに設立年次，進学希望率（本調査）を考慮したマトリクスの中に配したものである。これは以下の分析のベースになる。　（小野　浩）

Ⅲ　学校類型別にみた学校規模の影響

〔1〕　規模の差の影響

高等学校の生徒数，したがって学級数によって示される学校規模の差が，学校施設，学校経営，教育過程などさまざまなことがらを媒介して，生徒の学級態度，生活行動，教師と生徒や生徒相互の社会関係，さらに学校内外に展開される生徒文化に投影されて，プラスもしくはマイナスに作用するか，この点をとらえるのが，本項の課題である。だが既にみたように，学校規模それ自体が，当該高校の歴史的社会的背景や特色に左右されており，それらを捨象して，規模という要因を，直接に生徒の意識や態度と相関させても，必じしも明瞭な傾向を読み取ることは困難である。しかし，だからといって，規模の差という要因が，生徒の意識や態度にかかわりを示すことがないということにはならない。

そこで高校――ここでは公立普通高校のみをいうのだが――そのものを，いくつかの類型にわけておいて，それぞれの類型内の高校の生徒の意識や態度を，彼らが所属する学校規模と相関させてみる――つまり規模の影響をみる――と，今度は，かなりはっきりした傾向を読み取ることができる。その際前提とした学校類型とは，前項でみたような，生徒の進路選択の傾向からとらえた三つの類型である。すなわち，(イ)国公立大学への進学を志望する生徒の割合の高い学校――国公立志向の強い学校，(ロ)大学進学を希望するものの割合が少ないわけではないが，相対的に私立大学を志望するものの多い学校――私立志向の強い学校，ならびに，(ハ)卒業とともに就職することを希望するものが相対的に多い学校――就職志向の強い学校，の3類型である。

各類型ごとの学校数は，(イ)国公立志向17校，(ロ)私立志向12校，(ハ)就職志向13校と分布するが，これを規模別にみると次のごとくである（表Ⅲ－1）。

表Ⅲ－1　学校類型別・規模別学校数

学校類型別 ＼ 規模別	国公立志向の強い学校	私立志向の強い学校	就職志向の強い学校	計
10～9学級	4校	5	—	9
8～7学級	9	6	3	18
6学級以下	4	1	10	15
計	17	12	13	42

この三つの類型別に対象者をわけて，それぞれの意識調査の結果を，学校規模と相関させていくと，かなり高い相関度を見出すことができる。結論を先にいえば，国公立志向の強い学校の生徒の場合には，第一に中間規模（8～7学級）の学校の生徒において，プラスの価値の反応が最も高い比率で示されるという特徴が読み取れる。つまりここでは，中規模の学校が“うまくいっている”ことになる。生徒の反応が良いのである。それに対して，第二に，私立志向の強い学校の生徒の反応になると，規模が大きくなるほど肯定的反応の割合が大きくなる傾向がある。6学級以下の学校の生徒よりは，8～7学級のそれのほうが，さらに10～9学校の学校の生徒のほうがもっと良い反応を示すという傾向になるのである。第三に，就職志向の強い学校は，もともと中小規模のものばかりであるうえに，学校規模による態度の差はあまり明瞭ではない。しいていえば，6学級以下の小規模校の生徒よりは，8～9学級の学校の生徒のほうが，いくらか肯定的反応が多いかにみえる。

そこで，いくらか具体的な質問項目を事例的に示すことにしてみよう。例えば，Q11「あなたは，いまの学校や先生やクラスや生徒に対してどのように感じていますか。A～Dのそれぞれについて，当てはまる番号に○を付けてください。」において，＜ともも親しみを感じる＞と＜やや親しみを感じる＞とに回答したものの合計比率にははっきり示されている。A「学校に対して」のついては，国公立志向の強い学校の生活の場合，8～7学級の学校の生徒で，それが47.4％であるが，6学級以下の小規模校の生徒では38.6％にすぎない。また10～9学級という大きい規模の学校の生徒でも45.7％とやや低い。

一方，私立志向の強い学校の生徒では，大規模校の生徒ほど，＜親しみを感じる＞ものの比率が高く，10～9学級，8～7学級，6学級以下に分けると，61.9％，51.9％，26.7％という形になる。

Aだけでなく，B「先生に対して」，C「クラスに対して」，D「生徒に対して」でもほぼ類似の傾向がみられる。ただし，CとDについては，私立志向校の生徒でも学級が親しみを感じるものが最大となり，同公立志向と同じ傾向を示している。8～7学級の適正性を表現しているかにみえのである（表Ⅲ－2）。

同様のことは，Q13F「学校にいる時間と，学校外にいる時間とでは，どちらが楽しいことが多いですか」の回答についてもいえるのであって，A「学校にいる時間」に関しては国公立志向校の生徒では，やはり8～7学級の生徒に「楽しい」ものの割合が高く（52.8％），10～9学級や6学級以下の生徒において低く（前者で

表Ⅲ—2　それぞれに「親しみを感じる」ものの比率（学校類型別規模別）

学校類型 学級規模	国公立志向 10～9　8～7　6～	私立志向 10～9　8～7　6～	就職志向 8～7　6～
A　学校に対して	45.7 < 47.4 > 38.3	61.9 > 51.9 > 26.7	31.4 > 17.9
B　先生に対して	22.0 < 29.8 > 22.1	20.0 > 16.8 > 9.5	22.9 > 14.0
C　クラスに対して	46.0 < 54.7 > 52.6	52.9 < 56.5 > 49.4	46.7 < 52.5
D　生徒に対して	46.2 < 48.1 > 45.3	41.4 < 45.1 > 36.2	49.5 > 48.0

表Ⅲ—3　「楽しい時間」とするものの比率（学校類型別・規模別）

	国公立志向校 10～9　8～7　6～	私立志向校 10～9　8～7　6～	就職志向校 8～7　6～
A　学校にいる時間	41.8 < 52.8 > 42.7	41.6 > 39.0 > 24.2	41.4 = 42.0
B　学校外にいる時間	55.6 > 45.5 < 55.7	56.6 < 59.9 < 73.2	57.1 = 57.4

41.8%，後者で42.7%）でている。それが，私立志向の生徒では，10～9学級が一番高くなる。

B「学校外にいる時間」が「楽しい」ものは，上の逆であるから，国公立志向校では両端が高く，中間の8～7学級の生徒で低くあらわれるし，私立志向では，小規模校の生徒ほど，「学校外にいる時間」のほうが「楽しい」ものの割合が高くなる(表Ⅲ—3)。

このほか，Q12の高校生活への評価面におけるプラスの反応（たとえば「先生の授業に満足している」に関して「そう思う」とするもの）でも，国公立志向校では，中間規模校が高い比率を示し，私立志向校では大規模校が高い比率を示している(表Ⅲ—4)。Q14「環境」にかかわって「とても満足」と「まあ満足」の合計をみても，ほぼ同じ傾向が読みとれる(表Ⅲ—5)。

以上のように，学校生活やそこでの生活条件学習環境や友人関係などに，アイデンテイファイしたり，満足したり，肯定的に反応したりする生徒の比率は，いわゆる名門進学校といわれる類型の学校の場合，8～7学級程の中間規模の高校の生徒に最も高くあらわれることになる。見方によっては，創立年次も古く，伝統の校風や誇りを持つような学校がこの規模であることが多いことからも，こうした名門校は学校経営もうまくいっていると

表Ⅲ—4　学校生徒の面でプラスの項目に「そう思う」ものの比率

	国公立志向校 10～9　8～7　6～	私立志向校 10～9　8～7　6～
A　この学校の勉強は将来のために役に立つ	38.6 < 40.3 > 34.9	29.8 > 22.9 > 7.1
B　先生の授業に満足している	13.2 < 15.4 > 9.5	7.2 > 4.2 > 0.8
C　授業以外での先生との接触に満足している	3.3 < 6.0 > 4.6	4.9 > 3.8 > 4.0
D　ホームルーム活動は有意義である	15.1 < 20.5 > 15.0	16.1 > 14.5 > 7.9
I　現在の高校での生活は楽しい	29.6 < 35.0 > 25.2	25.7 > 20.0 > 14.2

表Ⅲ—5　環境条件に「満足している」ものの比率

A　学校のまわりの環境には	43.8 < 50.2 > 40.0	42.2 > 27.0 < 41.8
B　校舎には	28.8 < 45.6 > 10.1	25.4 < 30.6 < 54.4
C　グランドには	25.5 < 39.1 > 28.6	34.4 > 23.4 < 38.6
D　体育館には	23.8 < 39.9 > 24.0	34.1 > 26.1 < 61.4
E　図書室には	40.5 > 37.7 > 24.7	32.2 = 32.1 > 30.7
F　理科の実験室などには	35.1 > 29.9 > 21.4	23.8 > 21.4 > 6,3

いうことになる。同じ進学校でも，新設の場合には規模が広がりやすく，また地方中核都市からははずれた地域の学校の場合，規模が大きくはなり得ないところがあり，こうした点からすると，生徒の学校生活への肯定的な反応を必ずしもつかみきれない傾向が相対的にではあるけれども，みられるように思われる。

一方，進学傾向の強い学校ではあるけれども，いわゆる名門校でない私立志向の強い高校に関しては，むしろ10～9学級ぐらいの生徒数を擁しているほうが，学校経営上うまくいっているがにみえる。このあたりの意味の解釈については，なお分析を深めてみなければならないであろう。ともかく，学校を進路選択の志向状況にかがわらせて類型化させ，それぞれの類型ごとに学校規模の影響をとらえるる限りにおいては，規模の差が生徒の態度の上に違いを作り上げていることが，かなりはっきり読み現われたわけである。これをもって直ちに，高校の適正規模が，たええば，8～7学級程度であると断定することは危険であって，ここでは，ともかく規模の差があるということだけを主張するにととめたい。

〔2〕 学校類型間の差異

上の分析からも明らかなように，高校生の意識や態度ないしはそこに形成される生徒文化の差を作り上げる因子として，進路選択の上での志向の差からとらえた学校類型が考えられる。そこで次に，一応規模の問題を離れて，直接に学校類型相互の間の生徒文化の違いを押えてみることとする。

この際，質問のひとつについて分析し記述することは，いたずらに煩雑にわたるだけであるので，むしろ回答者の反応の傾向をタイプ化（学校類型別にとらえたときの反応タイプ）させてみて，その特徴から，質問項目を類型づけてみようと思う。具体的に示したほうがわかりやすいと思うが，学校類型別に示される反応傾向から，次の四つの質問項目タイプが考えられる。

①Aタイプの質問群――〔国公立志向校＞私立志向校＞就職志向校〕，すなわち，名門進学校の生徒になるほど比率がよくなる傾向を示す質問群

②Bタイプの質問群――〔国公立志向校＜私立志向校＜就職志向校〕，すなわち，①とは逆に，非進学校になるほど比率は大きくなる傾向を示す質問群

③Cタイプの質問群――〔国公立志向校＜私立志向校＞就職志向校〕，すなわち，中間類型（私立志向校）の学校の生徒に高く反応がでる傾向の質問群

④Dタイプの質問群――〔国公立志向校＞私立志向校＜就職志向校〕，すなわち，中間類型の学校の生徒に最も低い比率が示されるようなタイプの質問群

この四つのタイプごとに，それぞれの傾向を示す質問項目を列記してみると，別表（表Ⅲ―6，ないし表Ⅲ―8）のようになる。

まず反応傾向がAタイプの質問項目，つまり進学傾向

表Ⅲ―6　反応が「Aタイプ」の質問項目

資問		選択肢	国公立志向		私立志向		就職志向
Q6B	学校内の仲のよい友人グループの人数	「持っていない」	17.9	＞	14.8	＞	11.2
Q6D	友人グループの話題	「勉強や入試のこと」	20.2	＞	11.6	＞	5.0
Q7D	どういう先生が多いか	「専門の研究にすぐれた先生」	10.1	＞	6.2	＞	4.6
		「授業に熱心な先生」	54.8	＞	39.3	＞	19.1
Q7E	どういう先生に教わりたいか	「授業に熱心な先生」	19.9	＞	12.8	＞	8.3
Q7F	授業中の先生の指名の方法	「必ず名前で呼ばれる」	25.0	＞	17.1	＞	12.6
Q9	あなたの学校の教育面の特色	「教科の指導」	69.1	＞	47.3	＞	18.6
		「受験指導」	79.9	＞	67.4	＞	20.8
Q11	親しみを　「感じる」	「学校に対して」	44.9	＞	22.1	＞	21.2
		「先生に対して」	26.2	＞	17.4	＞	16.2
Q12	高校生活について（評価）	「この学校の勉強は将来役立つ」	38.7	＞	24.2	＞	14.7
		「先生の授業に満足」	13.5	＞	5.1	＞	4.4
		「ホームルームは有意義」	17.9	＞	14.6	＞	11.0
		「この学校の生徒であること誇り」	37.1	＞	17.3	＞	6.4
		「高校生活は楽しい」	31.5	＞	21.7	＞	20.0
Q15A	自由参加の部活動に	「参加したことはない」	20.6	＞	18.2	＞	16.5
Q17	大学で何をしたいか	「専門的知識や技術を身につける」	46.4	＞	42.9	＞	35.1

の強い学校の生徒になるほど高い比率を示す傾向の質問項目を拾い出してみると，はっきりいって勉強や授業中心に志向される傾向のものが多く，その限りでいえば，国公立志向の学校になればなるほど，学校や教師の授業や指導への評価も高いが，反面では，クラブ活動への参加が悪いということになりそうである。国公立中心に進学を望む生徒の多い，いわゆる名門進学校の生徒文化は，まさに授業志向傾向といえるわけで，ここでは学校の教育特色への認識においても，教科指導や受験指導に重点があるとしており，高校生活についての肯定的反応も相対的に高いことが読み取れる。

これに対して，反応傾向がBタイプの質問項目，つまり進学志向が相対的に弱い学校の生徒ほど反応が高い質問項目としては，次のようなものが挙ってくる。ここでは，Aタイプとは逆に，授業や学校での教育面での指導以外の生活場面をより強く志向するタイプの項目，あるいは，一日も早く高校教育から離脱したというような離脱型の反応などがみられる。それでいて反面，友人関係への志向は強いけれども，そこでも学校生活を離れた場面や話題を求めている。このBタイプの質問群から読み取れるもうひとつの特徴は，学校が規則を重視することに重点をおいていると認識する傾向であり，教師との関係についても，形式主義的になっていることが示唆されているという点である。

次に，Cタイプ，すなわち中間の私立志向校でむしろ高い比率が示されるような質問群はどうかというと，高校を離れたいとするわけではないけれども，学業以外の場面に楽しみを見出そうという傾向が強いといったところであって，私立志向の強い学校の生徒ほど，学校外の時間が楽しいとするものが多く，友だちとショッピングをしたり，街に出たりすることも多いわけである。

Dタイプは，Cタイプの裏返えしであるから，あらためて挙げるまでもないが，私立志向校だけ低く示される質問項目をみてみると，学校にいる時間が楽しいとか，

表Ⅲ—7　反応が「Bタイプ」の質問項目

	質　　問	選　　択　　肢	国公立志向		私立志向		就職志向
Q6B	学校内の仲のよい友人グループの人数	「5～9人」	28.8	<	35.8	<	39.7
Q6C	友人グループができたきっかけ	「その他」（クラスやクラブ以外）	12.8	<	14.8	<	17.7
Q6D	友人グループでの話題	「異性のこと」	15.2	<	17.4	<	21.7
Q7C	個人的にいつでも相談できる先生	「いない」	64.8	<	69.1	<	72.8
Q7E	どういう先生に教わりたいか	「何でも気軽に相談できる先生」	60.8	<	68.4	<	78.8
Q7F	授業中の先生からの指名の方法	「番号や指差し」	74.6	<	82.8	<	87.3
Q9	あなたの学校の教育面での特色	「規律を守らせることに力点」	28.1	<	60.5	<	68.3
		「就職指導」	1.2	<	8.7	<	28.7
Q14	高校生活について（評価）	「規則が多すぎる」	14.6	<	37.1	<	49.0
		「できることなら他の高校にかわりたい」	7.2	<	15.2	<	18.3
		「はやく社会へ出て働きたい」	0.7	<	15.8	<	28.9
Q15A	自由参加の部活動に	「参加している」	58.4	<	61.1	<	65.1
Q13E	学校外の生活で一番楽しいこと	「友人関係」	24.8	<	29.1	<	36.7

表Ⅲ—8　反応が「Cタイプ」の質問項目

	質　　問	選　　択　　肢	国公立志向		私立志向		就職志向
Q7A	名前を知っている先生の数	「10人以内」	14.9	<	25.4	>	22.0
Q8	学校全体の生徒数が	「多過ぎる」	22.7	<	25.2	>	6.2
Q10	学校に力を入れてほしいこと	「生徒会活動」	3.6	<	8.4	>	7.1
Q12	高校生活について（評価）	「学校の勉強以外にもっとしたいことがある」	82.4	<	84.1	>	75.2
Q13C	学校外での生活	「友だちとショッピングをしたり街に出たりすることがよくある」	41.3	<	47.2	>	45.0
Q13F	楽しい時間	「学校外にいる時間」	50.5	<	59.7	>	57.4

学校の教育環境条件に満足であるとかいった項目がそれにあたる。

このようにして，学校類型にそれぞれの類型の学校の生徒の意識を比較してみると，かなり明瞭な差があらわれ，進路志向の特質がその学校における生徒の日常生活態度や学習態度を特徴づけ，それに応じて生徒文化が形作られていうことがうかがえる。受験型で教科指導中心の教育体系の中での生徒文化，学校離脱型で規律遵守中心の教育体系の下に形成される生徒文化，そして中間の生活志向型で部活動中心の教育体系において作られる生徒文化といった類型づけが，ほぼ可能なようにみえる。

〔3〕 学校における教育指導の特色類型による意識の差

そこで上の点をより深り下げるために，今度は，Q9の「あなたの学校の教育面での特色と思われることは何ですか」という問いを学校別に集計したものの結果にもとづいて，学校を，（生徒の認識を通してとらえた）教育指導の特色別に類型化させてみた。そして，この類型別に，それぞれの学校の生徒の意識をとらえるとどうなるかを明らかにしようというわけである。

まずQ9で，AからMまでの各質問に＜そう思う＞と答えたものの割合は，全対象者についていえば，F「受験指導に力を入れている」58.7%，D「規則を守らせることに力を入れている」49.3%，E「教科指導に力を入れている」57.8%，A「クラブ活動に力を入れている」24.2%などが目立つところで，この肯定者の割合の分布には，かなりの学校差があるところから，学校を類型化させて次のような五つのタイプに分けてみた。「受験型」8校，「規律型」8校，「受験・規律型」5校，「受験・部型」10校，「部・規律型」6校，「その他」5校がそれである。もっと大まかにくくれば，「受験，教科指導重視型」の学校と，「規律重視型」の学校とを両極とし，それにからむ形で「部活動重視型」の学校があるといえそうである。ただし，部活動重視と受験重視とは必ずしも対立範疇ではなく重なり合う部分があるが，規律重視と部活動重視は，それほど重なり合うことが少なく，むしろ対立する範疇であるとさえいえそうである。

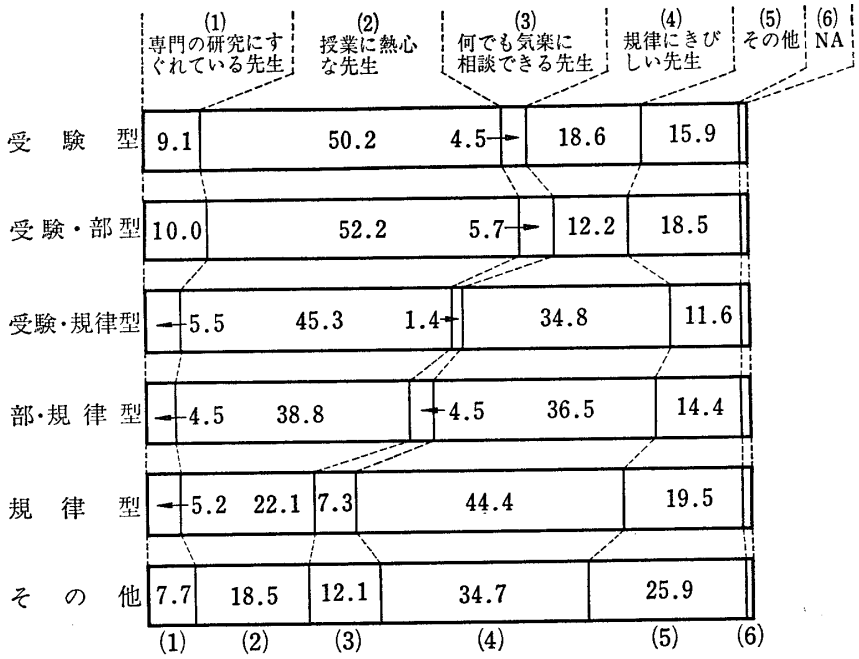
「受験型」「受験・部型」および「受験・規律型」の学校の生徒の7割～8割は，学校が受験指導に力を入れていると認めており，教科の指導に力を入れていることについても同じように肯定するが，「規律型」や「部・規律型」「その他」の学校の生徒では，それが2～4割程度である。反対に，「規律型」「受験・規律型」ならびに「部・規律型」の学校の生徒の6～7割は，学校が規則を守らせることに力を入れているとしている。また「受験・部型」の学校の生徒は，その43%までが，学校は部活動に力を入れていると認めている。

以上のようにして得た教育指導の特色による学校タイプ別に，生徒の意識や態度を分析してみると，いくつか

表Ⅲ－9　あなたの学校の教育面での特色，「そう思う」としたものの割合

	全体	受験型	規律型	受験・規律型	受験・部型	部・規律型	その他
対象校の数	校 42	8	8	5	10	6	5
	%						
A クラブや部活動に力を入れている	24.2	16.5	15.3	9.0	43.0	24.2	27.0
B ホームルーム活動に力を入れている	8.3	4.0	10.2	6.8	12.1	7.3	7.2
C 生徒会活動に力を入れている	7.7	5.2	9.0	3.0	11.7	6.6	7.4
D 規則を守らせることに力を入れている	49.3	39.7	74.1	68.1	25.6	58.2	47.8
E 教科の指導に力を入れている	47.8	63.3	27.4	66.3	57.3	38.1	24.8
F 受験指導に力を入れている	58.7	76.3	28.2	83.1	73.7	46.6	32.6
G 就職指導に力を入れている	11.5	9.6	26.9	3.3	4.5	16.9	8.8
H 選択科目が多い	16.8	28.0	7.6	14.7	17.3	18.4	12.0
I 実技や実習や実験が多い	3.2	2.4	3.5	1.9	2.6	3.3	6.5
J 個人研究や自主ゼミの時間が多い	1.3	1.8	0.7	1.2	1.2	2.1	1.0
K 授業の内容を易しくしている	9.1	8.8	15.1	6.6	5.7	10.1	9.4
L 全体の授業時間数が少ない	4.0	3.7	4.2	3.2	4.3	5.4	3.0
M 能力適性進度に応じたクラス編成をしている	20.8	15.8	22.4	30.2	20.1	23.4	15.5
対象者数	人 5,795	1,138	1,044	722	1,448	756	690

図Ⅲ—1　「どういう先生が多いか」（教育面の特色類型別）



表Ⅲ—10　学校生活への評価，「そう思う」ものの割合（教育面での特色類型別）

	全体	受験型	受験・部型	受験・規律型	部・規律型	規律型	その他
A　この学校の勉強は将来のために役立つ	27.4	32.2	32.5	33.5	21.2	15.8	20.6
B　先生の授業に満足している	8.4	12.3	8.9	10.9	7.9	4.4	4.8
C　授業以外での先生との接触に満足している	4.9	4.2	5.1	4.6	5.4	5.5	4.2
D　ホームルーム活動は有意義である	14.9	13.4	19.5	18.4	14.2	11.7	9.9
E　部（クラブ）活動は楽しいことが多い	32.9	39.7	35.7	39.3	27.5	22.5	30.3
F　学校の勉強以外にもっとしたいことがある	80.8	18.4	83.6	82.0	77.5	77.7	80.7
G　この学校の規則は多すぎる	31.2	22.1	12.8	42.0	44.6	46.6	35.7
H　この学校の生徒であることは誇りである	22.3	29.3	34.8	28.3	14.4	6.5	11.0
I　現在の高校での生活は楽しい	25.3	29.2	29.2	25.9	20.2	21.3	21.6
J　できることなら他の高校にかわりたい	12.8	8.8	8.4	11.2	15.9	19.3	17.0
K　はやく社会に出て働きたい	17.6	16.6	11.7	13.2	20.5	25.4	20.6

の特徴ある相関を読み取ることができる。

たとえば，Q7D「この学校にはどういう先生が多いですか」という質問の回答でいえば，「受験型」や「受験・部型」の学校の生徒においては，5割を越えるものが＜授業に熱心な先生＞を挙げるのに対し，「規律型」や「部・規律型」あるいは「受験・規律型」では，35～45％ほどの生徒が＜規律にきびしい先生＞を挙げている（図Ⅲ—1）。

また，とくにQ12の学校生活の諸側面についての生徒の評価に関していうと，「受験型」，「受験・部型」や「受験・規律型」では，概してプラス面の評価が高く，逆に「規律型」や「部・規律型」の学校の生徒では，相対的にマイナス面での評価が強くあらわれる傾向がある。たとえば前者（受験型系統の学校の生徒）では，「この学校の勉強は将来のために役立つ」とか，「部（クラブ）活動は楽しいことが多い」とか，この「学校の生徒であることは誇りである」とかへの＜そう思う＞ものの比率が高い。それに対して後者（規律型系統の学校の生徒）では，「この学校の規則は多すぎる」とか，「できることなら他の高校に代りたい」とかに＜そう思う＞とする反応が，かなり高い割合を示す。「早く社会に出て働きたい」の肯定もほぼ同様である。

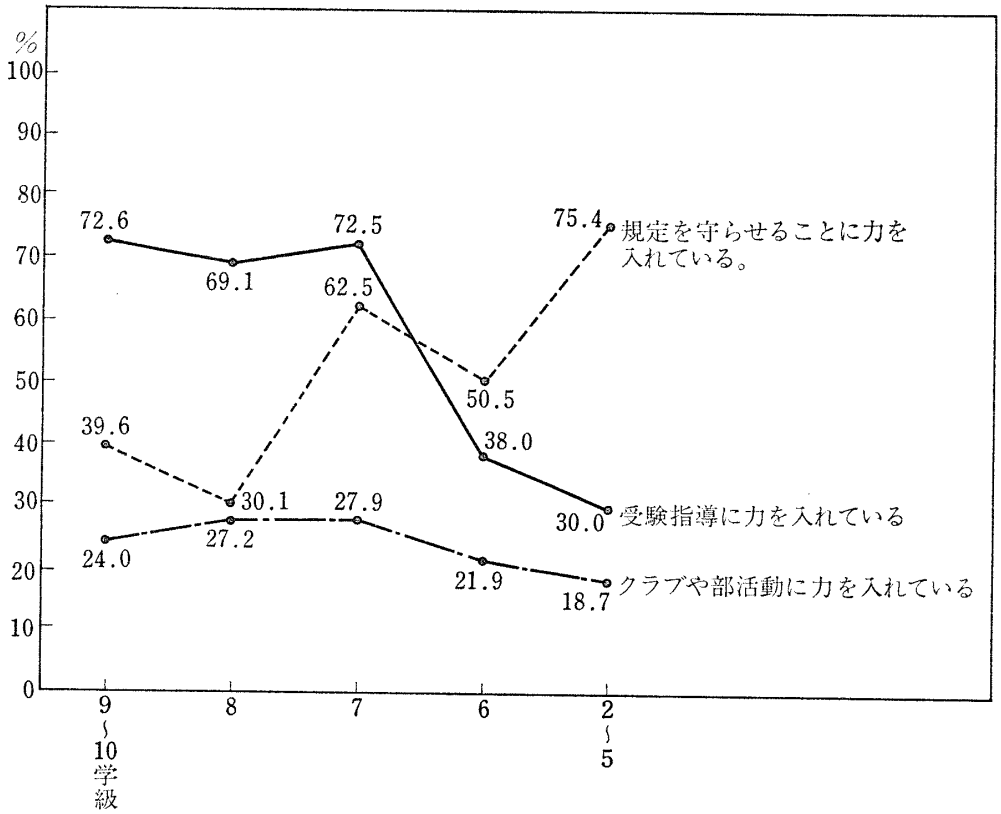
このほか「受験型」ないし「受験・部型」の学校の生徒に，相対的に高い比率が示される質問項目を列記して

みると，Q７E「どういう先生に教わりたいか」で<授業に熱心な先生>を挙げたもの，Q７F「授業中の先生からの指名」で<必ず名前で呼ばれる>としたもの，Q８「現在の学校全体の生徒数」が<丁度よい>としたもの，Q11「学校に対して」<親しみを感じる（とてもプラスやや）>と答えたもの，Q10「学校で力を入れてほしいもの」で<教科の指導>を挙げたもの，Q13「学習塾（進学塾）に通ったり，家庭教師についたり」<している>もの，Q13F「学校にいる時間」が<楽しい>と答えたもの，Q14「学校のまわりの環境」に<満足している>もの，「理科の実験室・実験器具」に<満足している>もの，Q16で「４年制大学（国公立）」への進学を<希望する>と答えたもの，「大学でどんなことをしたいか」で<専門的な知識や技術を身につける>ことを願っているもの，などである。

これに対して，「規律型「や「部・規律型」の学校の生徒に，相対的に高い反応がみられる質問項目は，先に例示したもの以外に，次のようである。すなわち，Q７C「個人的にいつでも相談できる先生」が<いない>もの，Q７E「どういう先生に教わりたいか」で，<何でも気楽に相談できる先生>と答えたもの，Q７E「授業中の先生からの指名」が，<名簿，番号，指差し>だとしたもの，Q13B「友だちとショッピングをしたり，街に出たりすること」が，<よくある>とするもの，Q13F「学校外の生活の中で一番楽しいこと」として<友人関係>を挙げたもの，Q14「学校の体育館」には<満足している>もの，Q15A「参加している部」が<運動部>であるもの，これらが相対的に高率を示すのである。

このように，教育面での学校の特色類型は，多くの点について，そこの生徒の意識や態度の特徴を作り出していることがわかるが，最後にもう一度前に戻って，こうした学校教育経営の特色が，学校の規模とどうかかわっているかを考察しておこう。〔図Ⅲ－２〕からも明らかなように，<受験指導に力を入れている>学校と，<規則を守ることに力を入れている学校>とは，はっきりと規模の上で，相互に反比例の関係にあい，７学級以上の中大規模校に受験型の特色をもつ学校が多く，逆に中規模から小規模校にかけては規律型の学校が多い。７学級のところが，両者の性格を同時に示しているようである。また必ずしも明確にではないが，８～７学級といった中規模では，相対的に部（クラブ）型の傾向が他よりやや高い比率であらわれている。もちろんこれらは，いずれも生徒の認知を通してとらえた学校の特色であるけ

図Ⅲ－２　学校の教育面の特色，「そう思う」ものの割合（学校規模別）



れども，先にみてきたように，受験型か規律型かといった認知上の特色が，そこでの生徒の意識の特徴を大きく分けていることを考えれば，学校規模が生徒意識とさらに関連しあう因子となっていることも推察できる。大規模校が受験型に傾斜しすぎ，規律面が薄くなり，反対に，小規模校が規律のみに傾斜して，教科指導や生徒の把握がやや弱くなる傾向があるといえそうで，さらに小規模校は部活動も弱体化する恐れもはらんでいる。その点からすれば，7学級ぐらいの規模の学校が，教科規律部活動をバランスよく取り込めるサイズになっているといえそうである。（松原治郎）

Ⅳ　学校規模と高校生活

この章での目的は，「あなたの高校生活」（調査票）についての学校別集計結果を利用して，学校規模と高校生活との関連を明らかにすることである。ここで分析に利用するデータの単位は学校であり，各学校ごとに総計（aggregate）された比率であることに注意しておきたい。ある質問に対して，学校内部に幾つかの生徒のグループが存在して相反する意識をもっている場合には，総計すると相互に消去し合うため，学校を単位とする分析にはその部分が反映されないことになる。したがって，学校内格差が大きい場合には，学校を単位とする分析だけでは必ずしも現実に接近することはできない。しかし，わが国の高校においては，さまざまな格差がむしろ学校間にかなり存在すると判断できるので，このような学校を単位とする分析も一定の意味をもちうると思われる。

ここでは高校生活を二つのレベルで把握しようとする。第一には高校イメージのレベルであり，第二は高校生活についての具体的な意識と行動のレベルである。高校生活の構造をいかにとらえるかという理論的問題について論ずることは，ここでは避けて，「あなたの高校生活」（調査票）の質問項目によって測定されるものであると操作的に定義することにしたい。これらは高校生活の幾つかの主要な側面にふれているが，そのすべての側面をカバーするものではありえない。またこれらの側面は，あくまで生徒の意識を経由したものであること，したがって，事実についての認識や反応でさえも，生徒の意識のフィルターを通過していることに注意しておきたい。

〔1〕 学校規模と高校イメージ

「あなたの高校生活」（調査票）では，次の15対のイメージ項目を提示して5段階で回答を求めている。15対のイメージ項目は次のとおりである。

A明るい―暗い，B個性のある―ありふれた，Cのんびりした―せかせかした，D暖かい―冷たい，E活発な―不活発な，F楽しい―苦しい，Gなじみやすい―なじみにくい，H自由な―窮屈な，I親しみのある―よそよそしい，J大きい―小さい，K評判のよい―評判のわるい，Lまとまりのある―ばらばらな，M充実した―むなしい，N整然とした―雑然とした，O広い―狭い。

ここでは，イメージ項目の左側について，「非常に」「かなり」と回答した比率を利用する。次の表Ⅳ―1は，東京（私立）を除く42校の平均と変動係数（標準偏差／平均値）を示している。この比率は学校の比率の平均であるから，調査対象となった生徒全体の比率と同一ではない。しかし，実際の結果を対比してみると大部分は1～2％程度の差異にとどまる。

表Ⅳ―1

イメージ項目	平均（%）	変動係数
A　明るい	37.0	0.39
B　個性のある	32.4	0.59
C　のんびりした	47.1	0.50
D　暖かい	23.4	0.41
E　活発な	19.5	0.68
F　楽しい	29.5	0.36
G　なじみやすい	36.6	0.32
H　自由な	41.2	0.55
I　親しみのある	27.6	0.41
J　大きい	22.3	0.83
K　評判のよい	30.3	0.83
L　まとまりのある	12.4	0.74
M　充実した	14.2	0.79
N　整然とした	13.5	0.79
O　広い	23.9	0.84

変動係数は，各イメージ項目についての反応の学校間格差の程度を示しているとみられる。学校間格差が大きいのは，「広い」，「大きい」，「まとまりのある」などという主として学校環境に関連するイメージ項目と，「評判のよい」，「充実した」，「整然とした」などという教科と受験重視に関するイメージとを含んでいる。調査対象として，できるだけ多様な規模の学校とさまざまな水準の大学進学率の高校を含んでいるためであろう。それに対して，学校間格差が小さいのは「なじみやすい」，「楽しい」，「明るい」，「暖かい」といった項目である。このことは，現在通っている高校について「なじみやすい」

「楽しい」,「明るい」,「暖かい」と感じている高校生が各学校とも約1/3程度存在しており，しかも学校によってそれほど大きな差異がみられないことを示している。これは，それぞれの高校において高校生活に適応しているグループの存在を示唆しているのかもしれない。

次に，イメージに関する15項目それぞれについて，全体の平均比率を分岐点として「平均以上」「平均以下」の二つのカテゴリーに分けて，パターン分類の数量化を適用してみた。

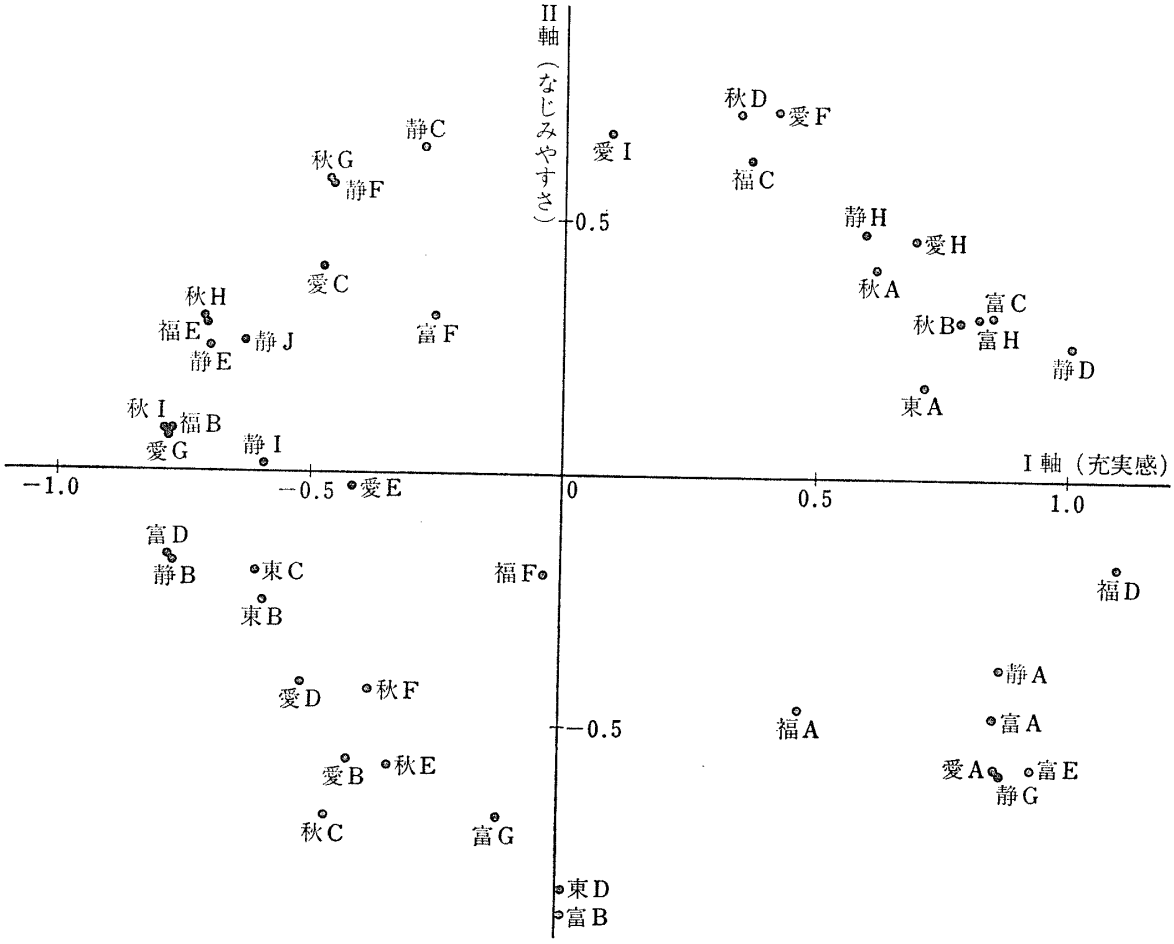
その結果のうち，第Ⅰ軸および第Ⅱ軸において，それぞれ絶対値の大きいカテゴリー・スコアを示すと表Ⅳ—2のようになる。

第Ⅰ軸について，プラスのスコアが高いのは，「充実した」,「活発な」,「明るい」,「楽しい」などの項目であり，マイナスのスコアが高いのは，「明るくない」,「楽しくない」などの項目である。そこでこの軸は，活発で楽しい高校生活を反映する「充実感」に関連すると考えられる。第Ⅱ軸については，「なじみやすい」,「暖かい」,「のんびりした」などの項目においてプラスのスコ

表Ⅳ—2

第Ⅰ軸		第Ⅱ軸	
充実した	1.74	なじみやすい	1.86
活発な	0.66	暖かい	1.57
明るい	1.50	のんびりした	1.55
楽しい	1.48	評判のよくない	1.18
個性のある	1.40	整然としていない	1.15
自由な	1.33	⋮	
親しみのある	1.26	暖かくない	−1.10
まとまりのある	1.17	まとまりのある	−1.32
大きい	1.30	なじみやすくない	−1.43
評判のよい	1.02	評判のよい	−1.54
⋮		整然とした	−1.64
個性のない	−1.08	のんびりしていない	−2.20
自由でない	−1.12		
親しみのない	−1.16		
楽しくない	−1.25		
明るくない	−1.26		

図Ⅳ—1　学校イメージ（学校別）

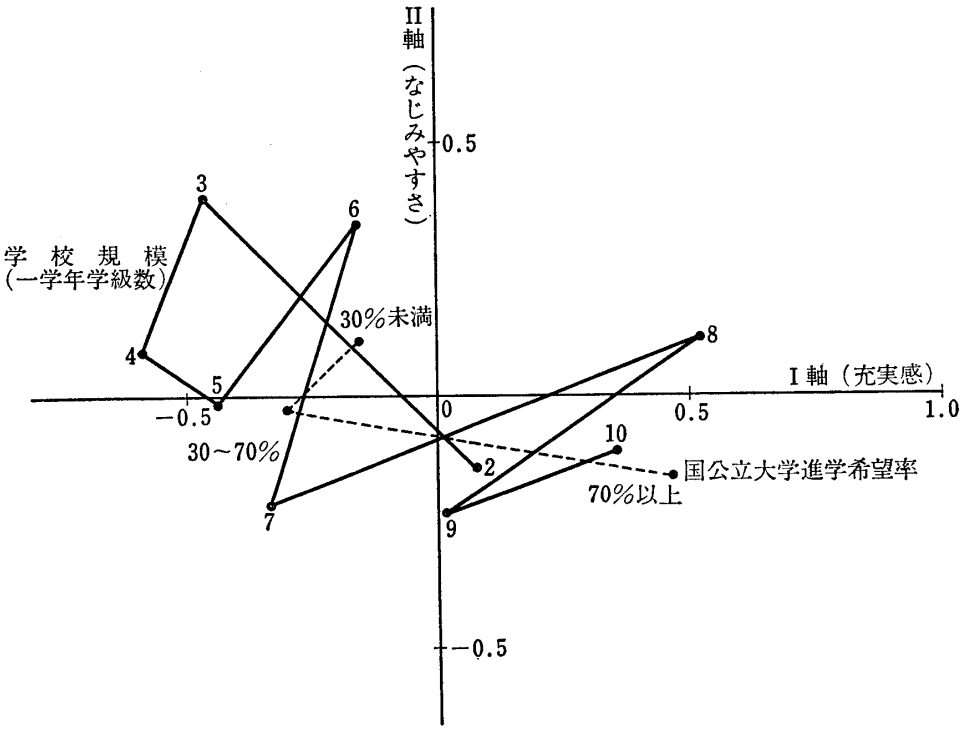


アが高く，「のんびりしていない」，「整然とした」，「評判のよい」などの項目においてマイナスのスコアが高い。したがって，これはのんびりとして暖かい感じを与える「なじみやすさ」に関する軸であるとみられる。その対極には，整然として評判はよいが，のんびりとはしていない受験校のイメージが現れる。

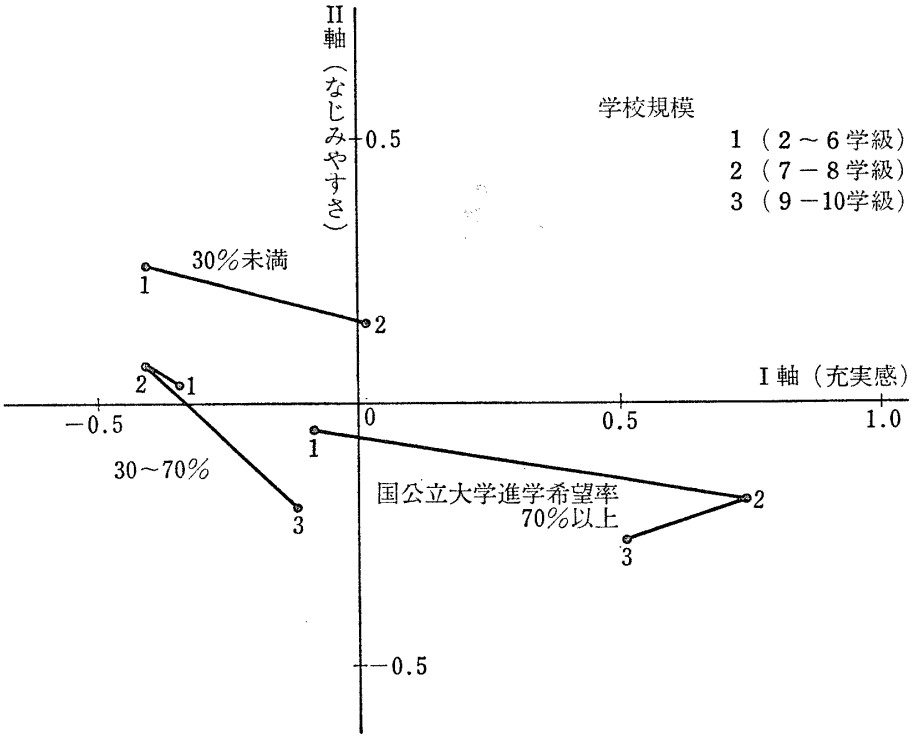
第Ⅰ軸の固有値は0.40，第Ⅱ軸の固有値は0.21となっており，この二つの軸だけで全体の分散の約61％を説明する。そこで第Ⅰ軸と第Ⅱ軸を組み合わせることによって，〔1〕充実感がありしかもなじみやすい，〔2〕充実感はないがなじみやすい，〔3〕充実感もなくなじみにくい，〔4〕充実感はあるがなじみにくいという学校イメージの4類型を設定することができる。各学校のスコアをプロットしてみると図Ⅳ—1のようになる。この図をみると明らかなとおり，大部分の高校は以上の4類型のいずれかに含めることができる。

次にこれらの学校イメージに対して学校規模はどのように影響しているのだろうか。これを推定するために，学校規模（1学年学級数）の平均スコアをプロットしてみよう（図Ⅳ—2）。6学級以下についてはほとんど第Ⅱ象限（充実感はないがなじみやすい）にあり，7学級で第Ⅲ象限（充実感もなくなじみにくい），8学級で第Ⅰ象限（充実感がありしかもなじみやすい），9，10学級で第Ⅳ象限（充実感はあるがなじみにくい）へと移行することがわかる。したがって，この調査の対象となった高校について平均的にみれば，8学級が最も望ましいイメージに近いといえる。同様に，高校生活を規定する主要な要因の一つである国公立大学進学希望率を3区分して（30％未満／30～70％／70％以上），平均スコアをプロットすると，国公立大学進学希望率が高くなるにつれて，第Ⅱ象限（充実感はないがなじみやすい）から，第Ⅳ象限（充実感はあるがなじみにくい）へと，学校イメージが移行することがわかる。しかし，学校規模と国公立大学進学希望率とは関連があるので，国公立大学進学希望率を一定にして，学校規模別に平均スコアをプロットしてみると，どのような傾向がみられるのだろうか（図Ⅳ—3）。三つのタイプの国公立大学進学希望率のいずれの場合においても右下がりの傾向がみられる。このことは，学校規模が大きくなるにつれて，「なじみやすさ」を犠牲にして「充実感」がやや高まることを意味する。いずれの学校規模においても，国公立大学進学希望率30～70％の高校では，「なじみやすさ」が，国公立大学進学希望率30％未満の高校より低く，「充実感」が，国公立大学進学希望率70％以上に及ばないことがわかる。国公立大学進学希望率70％以上の高校については，学校規模9～10学級において第Ⅰ軸，第Ⅱ軸のいずれについても低下する傾向がみられる。これは大規模化に伴う問題を示唆しているのだろうか。

図Ⅳ—2　学校規模，国公立大学進学希望率と学校イメージとの関連



図Ⅳ—3　学校イメージとの関連（国公立大学進学希望率を一定）



〔2〕 学校規模と高校生活

次に，イメージよりも具体的な意識と行動のレベルで高校生活をとらえてみることにしたい。そのために，「あなたの高校生活」の各質問項目から，表Ⅳ—3に示す項目を選択した。表Ⅳ—3は，学校別比率の平均と変動係数を示している。これらの項目のうち，特に変動係数が大きく，学校間格差が著しい項目としては，「何でも気楽に相談できる先生が多い」，「ホームルーム活動に力を入れていると思う」，「就職指導に力を入れていると思う」，「実技や実習や実験が多いと思う」，「先生の授業に満足している」などが挙げられる。これに対して，学校間格差があまりみられないのは，「個人的にいつでも相談できる先生はいない」，「クラスに対して親しみを感じる」，「生徒に対して親しみを感じる」，「学校の勉強以外にもっとしたいことがある」，「学校にいる時間の方が学校外にいる時間より楽しいことが多い」，「現在自由参加の部(クラブ)や同好会に参加している」といった項目である。つまり，クラスや生徒に対して親しみを感じ，部や同好会に参加する点に関して学校間格差はあまりみられない。特に注目されるのは，個人的に相談できる先生がなく，学校の勉強以外にもっとしたいことがあり，学校外にいる時間の方が楽しいと思っている生徒が各学校にかなり多数，しかも共通に存在していることである。

次にこれらの項目について，質問の意味，全体の比率・分布などを検討した結果，最終的には，次の34項目における学校別比率を採用することになった。Q6（B，D1およびD5），Q7（C，D1～D4，F1），Q9（A～G，M），Q11（A～D），Q12（A～K），Q13（F），Q15（A1）。これらの34項目それぞれについて，全体の平均比率を分岐点として，「平均以上」，「平均以下」の二つのカテゴリーに分けて，パターン分類の数量化を適用した。その結果のうち，第I軸および第II軸においてカテゴリー・スコアの絶対値の高い項目を示すと，表Ⅳ—4のようになる。

第I軸についてプラスのスコアが特に高いのは，「この学校の勉強は将来のために役立つと思う」，「この学校の生徒であることは誇りである」の2項目であり，「教科の指導に力を入れていると思う」，「受験指導に力を入れていると思う」にも高いスコアがみられることから，進学志向の強い高校における「教科と受験」重視に関連するものであると考えられる。第I軸のマイナス方向では，「規律にきびしい先生が多い」，「はやく社会に出て働きたいと思う」，「この学校の規則は多すぎると思う」などにおいてカテゴリー・スコアが高いことから，主として就職志向の高校における「規則と規律」重視に関するものであると解釈できる。このように「教科と受験」

表Ⅳ—3

質問項目		平均（%）	変動係数
Q6B	学校のなかで仲のよい友人グループを持っていない	14.5	0.43
D1	友人グループで勉強や入試のことが主に話題になる	13.1	0.64
D5	友人グループで異性のことが主に話題になる	18.2	0.41
Q7C	個人的にいつでも相談できる先生はいない	69.0	0.12
D1	専門の研究にすぐれている先生が多い	7.3	0.75
D2	授業に熱心な先生が多い	38.8	0.50
D3	何でも気楽に相談できる先生が多い	5.9	1.05
D4	規律にきびしい先生が多い	29.5	0.78
F	授業中，先生からの指名は必ず名が呼ばれる	19.0	0.77
Q9A	クラブや部活動に力を入れていると思う	23.7	0.73
B	ホームルーム活動に力を入れていると思う	8.2	1.03
C	生徒会活動に力を入れていると思う	7.7	0.86
D	規則を守らせることに力を入れていると思う	49.7	0.57
E	教科の指導に力を入れていると思う	46.8	0.54
F	受験指導に力を入れていると思う	57.5	0.51
G	就職指導に力を入れていると思う	12.1	1.31
H	選択科目が多いと思う	17.1	0.71
I	実技や実習や実験が多いと思う	3.4	1.02
J	個人研究や自主ゼミの時間が多いと思う	1.6	0.82
K	授業の内容をできるだけやさしくしていると思う	9.0	0.67
L	全体の授業時間数が少ないと思う	4.0	0.82
M	能力・適性や進度などに応じたクラス編成をしていると思う	21.6	0.88
Q11A	学校に対して親しみを感じる	31.2	0.48
B	先生に対して親しみを感じる	28.0	0.60
C	クラスに対して親しみを感じる	56.6	0.18
D	生徒に対して親しみを感じる	54.0	0.28
Q12A	この学校の勉強は将来のために役立つと思う	26.9	0.50
B	先生の授業に満足している	12.4	1.10
C	授業以外での先生との接触に満足している	4.9	0.41
D	ホームルーム活動は有意義であると思う	14.8	0.52
E	部（クラブ）は楽しいことが多い	32.5	0.32
F	学校の勉強以外にもっとしたいことがある	80.7	0.07
G	この学校の規則は多すぎると思う	31.0	0.74
H	この学校の生徒であることは誇りである	21.9	0.76
I	現在の高校での生活は楽しい	25.4	0.35
J	できることなら他の高校にかわりたいと思う	12.8	0.62
K	はやく社会に出て働きたいと思う	17.9	0.58
Q13F	学校にいる時間の方が学校外にいる時間より楽しいことが多い	43.4	0.19
Q14A	学校のまわりの環境には満足している	40.3	0.39
B	校舎には満足している	34.1	0.60
C	グラウンドには満足している	32.0	0.65
D	体育館には満足している	32.7	0.66
E	図書室には満足している	31.5	0.40
F	理科の実験室，実験器具には満足している	26.1	0.59
Q15A	現在自由参加の部（クラブ）や同好会に参加している	60.8	0.20
Q16	卒業後4年制大学（国公立）に進学を希望している	44.7	0.75

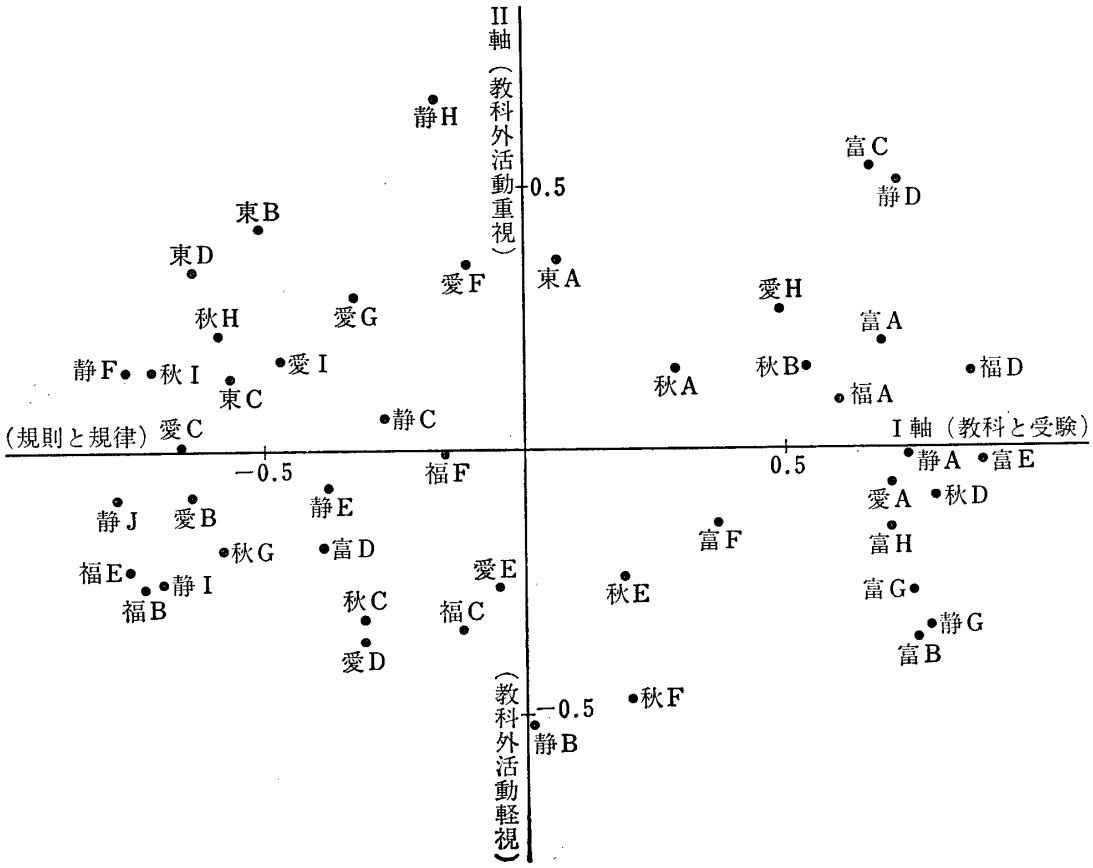
表Ⅳ—4

第Ⅰ軸		第Ⅱ軸	
この学校の勉強は将来のために役立つと思う	1.96	ホームルーム活動に力を入れていると思う	3.29
この学校の生徒であることは誇りである	1.78	授業以外での先生との接触に満足している	2.74
学校に対して親しみを感じる	1.71	何でも気楽に相談できる先生が多い	2.44
教科の指導に力を入れていると思う	1.70	クラブや部活動に力を入れていると思う	2.38
勉強や入試のことが友人グループの話題になる	1.70	生徒会活動に力を入れていると思う	1.90
授業に熱心な先生が多い	1.53	現在の高校での生活は楽しい	1.57
部（クラブ）活動は楽しいことが多い	1.50	受験指導に力を入れていない	1.35
専門の研究にすぐれている先生が多い	1.49	学校に対して親しみを感じる	1.26
先生の授業に満足している	1.45	専門の研究にすぐれている先生が多い	1.04
規則を守らせることに力を入れていると思わない	1.30	⋮	
規律にきびしい先生が少ない	1.26	生徒会活動に力を入れていない	−1.01
受験指導に力を入れていると思う	1.25	受験指導に力を入れていると思う	−1.12
現在の高校での生活は楽しい	1.22	授業中，先生からの指名は必ず名前が呼ばれる	−1.16
できることなら他の高校にかわりたいと思わない	1.22	生徒に対して親しみを感じない	−1.18
この学校の規則は多すぎると思わない	1.13	教科の指導に力を入れていると思う	−1.32
学校のなかで仲のよい友人グループを持っていない	1.12	何でも気楽に相談できる先生が少ない	−1.43
⋮		現在の高校での生活は楽しくない	−1.44
教科の指導に力を入れていない	−1.10	クラブや部活動に力を入れていない	−1.53
現在の高校での生活は楽しくない	−1.12	学校のなかで仲のよい友人グループを持っていない	−1.66
この学校の勉強は将来のために役立たない	−1.15	授業以外での先生との接触に満足していない	−1.75
学校に対して親しみを感じない	−1.20	ホームルーム活動に力を入れていない	−1.92
この学校の生徒であることは誇りでない	−1.25		
規則を守らせることに力を入れていると思う	−1.30		
授業に熱心な先生が少ない	−1.40		
受験指導に力を入れていない	−1.49		
就職指導に力を入れていると思う	−1.52		
できることなら他の高校にかわりたいと思う	−1.59		
この高校の規則は多すぎると思う	−1.60		
はやく社会に出て働きたいと思う	−1.63		
規律にきびしい先生が多い	−1.64		

重視の対極に「規則と規律」重視が現れ，この軸が高校生活の基調をなしていることは注目されてよい。第Ⅱ軸については，「ホームルーム活動に力を入れていると思う」，「授業以外での先生との接触に満足している」，「何でも気楽に相談できる先生が多い」，「クラブや部活動に力を入れていると思う」，「生徒会活動に力を入れていると思う」というカテゴリーなどにプラスのスコアが高く，その反対のカテゴリーにマイナスのスコアが高いことから，この軸は主として，教科外での活動や生徒との接触を学校（教師）が重視し努力している程度を示しているとみることができる。とりあえず，第Ⅱ軸を「教科外活動重視」「教科外活動軽視」とよぶことにしたい。さらに，ここには表示しないが，第Ⅲ軸には，クラス，生徒，先生などに対する「親近感」が現れる（なお，これら三つの軸は，カテゴリーの分岐点としてそれぞれ〔平均＋1標準偏差〕をとった場合にも同様にみられる）。

第Ⅰ軸の固有値は0.32，第Ⅱ軸の固有値は0.08となっており，第Ⅰ軸だけで全分散の約32％を説明する。そこで，第Ⅰ軸と第Ⅱ軸を組み合わせてみよう。この二つの軸を直交させて，学校ごとのスコアをプロットしてみると（図Ⅳ—4），「教科と受験」重視の高校の中でも，教科外活動を重視する学校としない学校とに分かれることがわかる。同様に「規則と規律」重視の高校にも，「教科活動重視」の学校と「教科外活動軽視」の学校とがある。9～10学級の高校9校についてみると，第Ⅰ軸のプラス方向に5校，マイナス方向に4校と分かれ，どちらかといえばマイナス方向の場合に第Ⅱ軸における変異が

図Ⅳ—4　高　校　生　活（学校別）

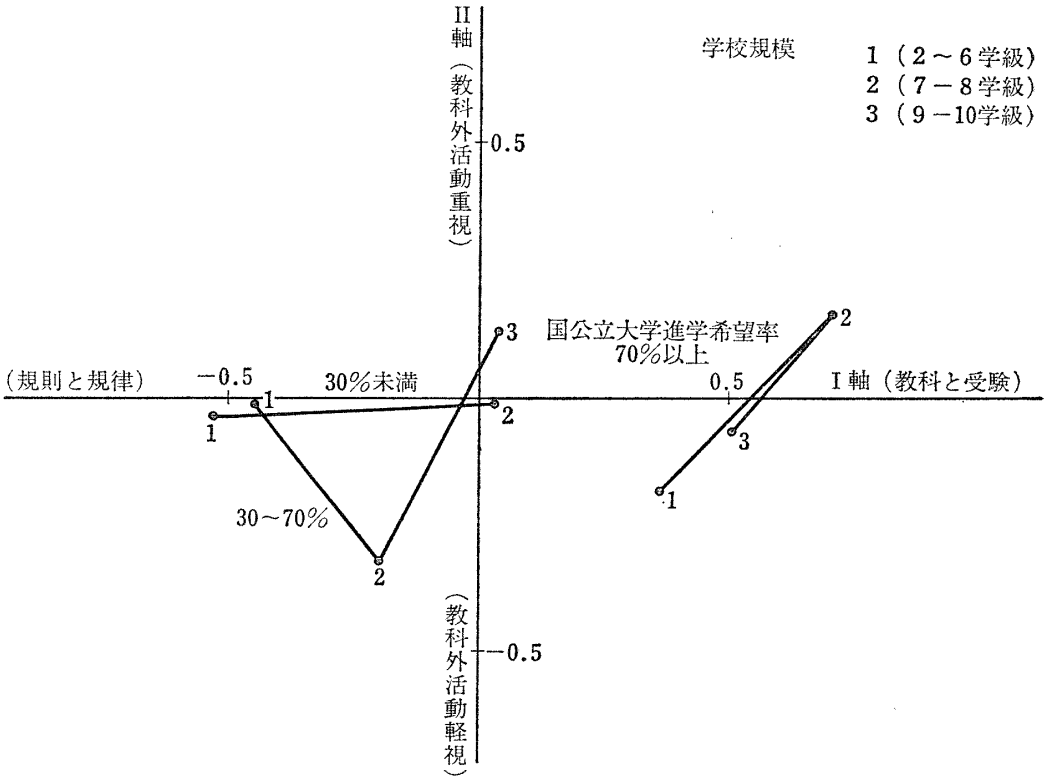


大きい傾向がある。

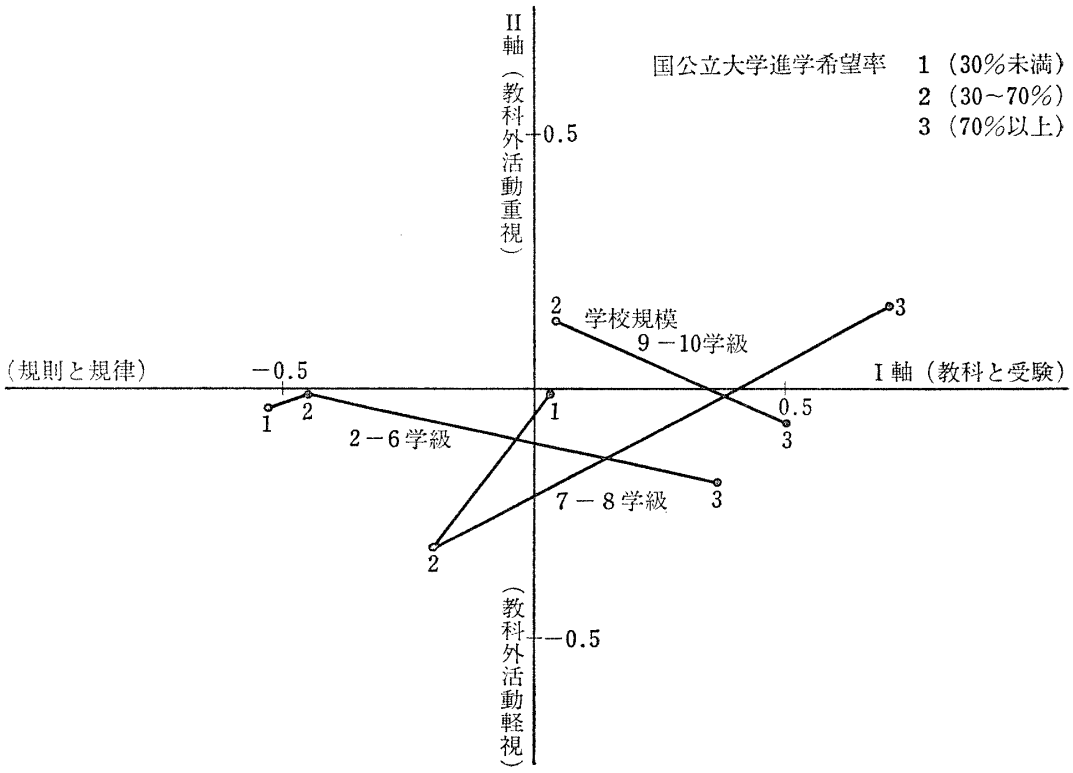
第Ⅰ軸と最も関連が深いのは，国公立大学進学希望率であることはいうまでもないから，それを一定にして学校規模別に平均スコアを図示してみると，どのような傾向がみられるだろうか。調査対象校数がそれほど多くないために，学校規模を3区分（6学級以下／7～8学級／9～10学級），国公立大学進学希望率を3区分（30%未満／30～70%／70%以上）にまとめている。図Ⅳ—5によれば，国公立大学進学希望率70%以上の高校だけが，とび離れて第Ⅰ軸のプラス方向に存在し，中でも7～8学級の高校が第Ⅱ軸についても高い平均点を示す。しかし，9～10学級の高校では6学級以下の高校の方向に逆もどりをすることがわかる。国公立大学進学希望率30～70%および30%未満のところでは，いずれも学校規模が大きくなるにつれて，第Ⅰ軸にそってプラス方向に移行する傾向がみられる。ただし，国公立大学進学希望率30～70%の場合には，学校規模7～8学級において，第Ⅱ軸にそってマイナス方向に低下することが注目される。全体として，国公立大学進学希望率をコントロールしても，学校規模が大きくなるにつれて，第Ⅰ軸のプラス方向（「教科と受験」重視）に移行する傾向がある。学校規模を一定とすれば（図Ⅳ—6），国公立大学進学希望率が高まるにつれて，当然第Ⅰ軸にそって右側へ移行する。その場合，2～6学級および9～10学級については第Ⅱ軸にそって下側へ移行する。しかし，7～8学級についてはやや異なるパターンを示す。国公立大学進学希望率30～70%のところで左下へ動き，70%以上になると右上に上昇する。

したがって，学校規模が何らかの影響をもつ可能性があるのは，①国公立大学進学希望率70%以上で学校規模9～10学級，②国公立大学進学希望率30～70%で学校規模7～8学級の場合である。①は大規模化に伴う問題の発生を，②はさまざまなタイプの進路希望に対応する教科外活動の困難さを示唆しているのかもしれない。いずれにしても，高校生活の観点からみた学校の適正規模は，学校のタイプによって異なる可能性がある。しかし，注意しなければならないのは，図Ⅳ—5・6がそれぞれの区分に属する高校の平均的なイメージにすぎないということである。高校生活が各学校によってかなり異なることは図Ⅳ—4に明らかである。図Ⅳ—5・6では各学校の高校生活の特性を相互に消し合うように平均化されていること，特に第Ⅱ軸（教科外活動重視・軽視）

図Ⅳ—5　高校生活との関連（国公立大学進学希望率を一定）



図Ⅳ—6　高校生活との関連（学校規模を一定）



における高校間の変異はかなり大きいにもかかわらず，それらが相殺されてしまうことに注意しておきたい。したがって，①および②については速断を避けるべきであろう。

この調査は6都県46高校を対象とするものであるが，学校規模の影響を統計的に検出するにはこれでも十分とはいえない。調査デザインの再検討を含めて，最終的検証は今後の課題として残されることになる。その場合に考慮しなければならない点を指摘しておきたい。大規模化に伴う弊害の可能性があるとされる11学級以上の高校が，この調査の対象校には含まれていない。それは，この調査が，できるだけ条件を一定にするために，主として公立高校をとりあげたことに起因する。したがって，11学級以上の学校を対象校に含めないかぎり，大規模化に伴う問題を顕在的にとらえることができない。これを解決するには，大規模校の多い私立高校を網羅的に調べるのが一つの方法である。しかし，この場合には調査実施可能性の問題と共に，新しい問題が発生する。私立高校における教育と経営の多様性や生徒の特性という新たな要因が加わるからである。そこで，公私立のいずれを問わず，できるだけ類似の学校特性（例えば進学希望率その他）をもち，しかも学校規模が異なる調査対象を選定する必要がある。しかし，この調査の過程で明らかになったとおり，学校特性相互間にかなり高い相関があるので（例えば国公立大学進学希望率と学校規模），学校規模だけの純粋な効果を統計的に取り出すことはかなりむずかしい。そのため最終的検証に一挙に到達することは不可能であろうが，学校規模の影響力の程度を狭い範囲に次第にしぼっていくことは，可能であり必要であろう。

（菊池　城司）

V　学校規模と生徒文化

高校進学率が93％を越え，現在多様な能力，適性，興味を持った生徒が高校に入学してきている。生徒に特徴的な行動様式や態度を，生徒文化（student culture）と呼ぶとすると，現在の高校にはどのような生徒文化が存在するのか。そして，さまざまな生徒文化の形成に，学校規模も含めた学校の組織的要因がどのようにかかわっているのであろうか。

現代の高校生の生徒文化と学校規模も含めた学校組織とのかかわりを明らかにするのが本章の課題である。

〔1〕 生徒文化の類型

現在の高校には，どのような生徒文化が存在するのか。具体的には，現在の高校生はどのようなタイプに分けられるのかを，まず明らかにしよう。

その手続は次のようなものである。今回の生徒に対する質問項目の中から，生徒の行動様式や態度の特徴を示す24項目を選び出し，それぞれを2者択一のカテゴリーにリコードしパターンの分類の数量化（数量化Ⅲ類）を適用した。第Ⅳ章で行った数量化Ⅲ類の分析が学校別比率を用いていたのに対し，ここでは生徒個々の回答をもとにして生徒のタイプ分けをした。第Ⅳ章で採用した項目とくらべると，Q6，Q7，Q11，Q12，Q13，Q15，Q16は共通で，Q9とQ14は除外し，Q13C，Dを加えてある。

結果を，1軸のカテゴリースコアーの高い順で，3軸までの得点を示したのが，表V—1である（AとA′，BとB′…NとN′は，2者択一カテゴリーの対極にある）。

まず1軸についてみると，マイナスコアが高いのは「先生の授業に満足している」「この学校の生徒であることは誇りである」「先生に対し親しみを感じる」「現在の高校での生活は楽しい」「学校に対し親しみを感じる」等である。したがってこの軸のマイナス方向は，学校生活への適応度の高さを示すものと解釈することができる。それは授業のみならず，先生，学校生活全体に対する適応度の高さを示す。

逆に，1軸のプラス方向のスコアの高いのは，「できることなら，他の高校にかわりたい」「規律にきびしい先生多い」「この学校の規則は多すぎる」「クラスに対して反発を感じる」「はやく社会に出て働きたい」等である。したがってこれは，学校生活への不適応から学校への反発，学校からの離脱を示す傾向と考えることができる。つまり1軸は，学校適応（−）—脱学校（＋）を支分ける軸ということができる。

次の2軸についてみると（表V—2），マイナススコアの高いのは，「規律にきびしい先生多い」「この学校の規則は多すぎる」「友だちとショッピングをしたり，街に出たりすることがよくある」「はやく社会に出て働きたい」「生徒に対して親しみを感じる」等である。したがってこれは，タテ関係よりヨコ関係へのコミットメント，つまり仲間との連帯志向の強さを示す。

2軸のプラスのスコアの高いのは，「個人的に親しく付き合っている友人はいない」「仲のよい友人グループを持っていない」「先生の授業に満足している」「友だちとショッピングをしたり，街に出たりすることはない」等である。したがって，これは友だちもなく，ひとりでいることの多いタイプである。つまり孤立志向であ

表V—1　生徒文化（数量化Ⅲ類のカテゴリー・ウエイト表）

	1 軸	2 軸	3 軸		1 軸	2 軸	3 軸
A　先生の授業に満足している	−3.01	1.91	2.89	N′　友人と勉強以外を話題にする	−0.01	−1.17	0.37
B　この学校の生徒であることは誇りである	−2.88	0.82	1.51	F′　先生との接触に満足していない	0.11	0.05	−0.15
C　先生に対して親しみを感じる	−2.86	0.64	−0.25	V′　友だちとショッピングしたり，街に出ることはない	0.11	1.64	−1.01
D　現在の高校での生活は楽しい	−2.85	−0.78	−0.11	X′　学校の勉強以外にしたいことはない	0.12	1.59	−0.83
E　学校に対して親しみを感じる	−2.59	0.29	−0.35	O′　先生から，名前で呼ばれることは少ない	0.19	−0.19	−0.27
F　授業以外での先生との接触に満足している	−1.96	−0.33	2.36	T′　ラジオの深夜放送やＤＪをよくきく	0.25	−1.26	0.30
G　この学校の勉強は，将来のために役立つ	−1.88	1.05	1.25	A′　先生の授業に満足していない	0.28	−0.14	−0.29
H　ホームルーム活動は有意義である	−1.77	−0.65	−1.16	H′　ホーム・ルーム活動は有意義でない	0.32	0.15	0.17
I　個人的に相談できる先生いる	−1.48	−0.47	1.20	M′　部（クラブ）活動は楽しくない	0.63	0.28	0.10
J　学校にいる時間のほうが楽しいことが多い	−1.39	−0.33	−1.12	I′　個人的に相談できる先生はいない	0.69	0.26	−0.59
K　生徒に対し親しみを感じる	−1.35	−1.36	−1.86	G′　学校の勉強は，将来に役立たない	0.72	−0.36	−0.51
L　クラスに対し親しみを感じる	−1.27	−1.04	−1.84	C′　先生に対し反発を感じる	0.75	−0.13	0.03
M　部（クラブ）活動は楽しいことが多い	−1.26	−0.49	−0.27	B′　この学校の生徒であることは誇りでない	0.83	−0.20	−0.47
N　勉強や入試のことを話題にする	−1.20	0.99	3.20	U′　仲のよい友人グループを持っていない	0.97	5.14	−4.40
O　先生から必ず名前で呼ばれる	−0.76	0.95	1.03	D′　現在の高校生活は楽しくない	0.97	0.30	0.34
P　学校の規則は多すぎない	−0.67	1.00	0.63	J′　学校外にいる時間のほうが楽しいことが多い	1.08	0.29	0.82
Q　規律にきびしい先生多くない	−0.58	0.89	0.82	W′　親しい友人いない	1.10	5.70	−5.96
R　他の高校にかわりたくない	−0.36	0.23	−0.14	K′　生徒に対し反発を感じる	1.18	1.23	1.56
S　はやく社会に出てはたらきたいとは思わない	−0.26	0.41	−0.02	E′　学校に対して反発を感じる	1.19	−0.09	0.12
T　深夜放送やＤＪをきかない	−0.18	1.03	−0.27	S′　はやく社会に出て働きい	1.25	−1.77	−0.05
U　仲のよい友人グループ持っている	−0.17	−0.87	0.75	L′　クラスに対し反発を感じる	1.46	1.25	2.05
V　友だちとショッピングしたり，街に出たりする	−0.12	−2.01	1.22	P′　この学校の規則は多すぎる	1.49	−2.12	−1.47
W　親しい友人がいる	−0.09	−0.47	0.50	Q′　規律にきびしい先生多い	1.52	−2.19	−2.21
X　学校の勉強以外にしたいことがある	−0.02	−0.34	0.17	R′　できることなら，他の高校にかわりたい	2.51	−1.35	0.75
				相　関　比	0.3746	0.2849	0.2312

表V—2　カテゴリー・ウエイト表（2軸）

規律にきびしい先生多い	−2.19
この学校の規則は多すぎる	−2.12
友だちとショッピングや街によくでる	−2.01
はやく社会に出て働きたい	−1.77
生徒に対して親しみを感じる	−1.36
他の高校にかわりたい	−1.35
深夜放送やＤＪをよくきく	−1.26
勉強以外のことを友人と話す	−1.17
クラスに対して親しみを感じる	−1.04
仲のよい友人グループいる	−0.87
現在の高校での生活は楽しい	−0.78
ホーム・ルーム活動は有意義	−0.65
部（クラブ）活動は楽しいこと多い	−0.49
個人的に相談できる先生いる	−0.47
親しい友人いる	−0.47
学校の勉強は役立ない	−0.36
学校の勉強以外にしたいことがある	−0.34
先生との接触に満足している	−0.33
学校にいる時間の方が楽しい	−0.33
略	
学校外にいる時間の方が楽しい	0.29
現在の高校生活は楽しくない	0.30
はやく社会に出て働きたいとは思わない	0.41
先生に対し親しみを感じる	0.64
この学校の生徒であることは誇り	0.82
規律にきびしい先生多くない	0.89
先生から名前で呼ばれる	0.95
友人と勉強や入試を話題にする	0.99
学校の規則多すぎない	1.00
深夜放送やＤＪきかない	1.03
学校の勉強は将来のために役立つ	1.05
生徒に対し反発感じる	1.23
クラスに対し反発を感じる	1.25
学校の勉強以外にしたいことはない	1.59
友だちとショッピングや街に出ることはない	1.64
先生の授業に満足している	1.91
仲のよい友人グループいない	5.14
親しい友人いない	5.70

る。したがって2軸は，仲間志向（−）—孤立志向（＋）を支分ける軸である。

3軸には，内向性—外向性を支分ける軸が出てきて，これは男女差が顕著であるが，ここでは3軸以下の分析は省略する。

名カテゴリーの1軸と2軸におけるカテゴリースコアを図示したのが，図V—1である。この2つの軸によって分けられた，4つの象限に，生徒文化の4つの類型をみることができる。

第1は，第2象限（学校適応・孤立）で，学校の授業に満足し，現在の学校の勉強は将来に役立つ考え，友人とは勉強や入試のことを話題にし，現在の学校の生徒であることを誇りであると感じているタイプである。これは，勉強型（Academic）の下位文化ということができる。

第2は，第3象限（学校適応・仲間志向）で，クラスや生徒に親しみを感じ，ホームルーム活動は有意義で，現在の高校での生活は楽しく，部（クラブ）活動も楽しいことが多いと感じているタイプである。これは，コールマン（J. S. Coleman）がアメリカの高校生に支配的であるとした，遊び型（Fun）の下位文化である。

第3は，第4象限（脱学校・仲間志向）で，学校は自分たちのやりたいことを抑圧する規律の場であり，はやく社会に出て働きたいと感じているタイプである。アチーブメント＝受験本位の学校教育方針に適応できなくて，同じような適応の問題に悩むもの同士で，反抗的規範を形成するタイプがこれにあたる。コーヘン（A. K. Cohen）のいう非行下位文化（delinquent subculture），インジャー（J. K. Yinger）のいう反抗文化（Contraculture）の担い手がこのタイプである。逸脱型（delinquent）と名づける。

第4は，第1象限（脱学校—孤立）で，親しい友人はいない，仲のよい友人グループを持っていない，クラスや生徒に反発を感じる，高校生活は楽しくないといった，孤立型（isolated）のタイプである。これが生徒の下位文化であるかどうかは保留するにしても，最近の生徒に顕著な一つの態度，行動様式であることは確かである。無気力で，自殺志向のある生徒はここに入る。

以上のように，現在の高校生の行動様式や態度＝生徒文化として，勉強型（Academic），遊び型（Fun），逸脱型（Delinquent），孤立型（Isolated）の4類型のあることがわかった。では，次にこれらの生徒文化は，どのような個人的属性，あるいはどのような学校の組織的要因によって，担われ支持されているかを，次にみてみよう。

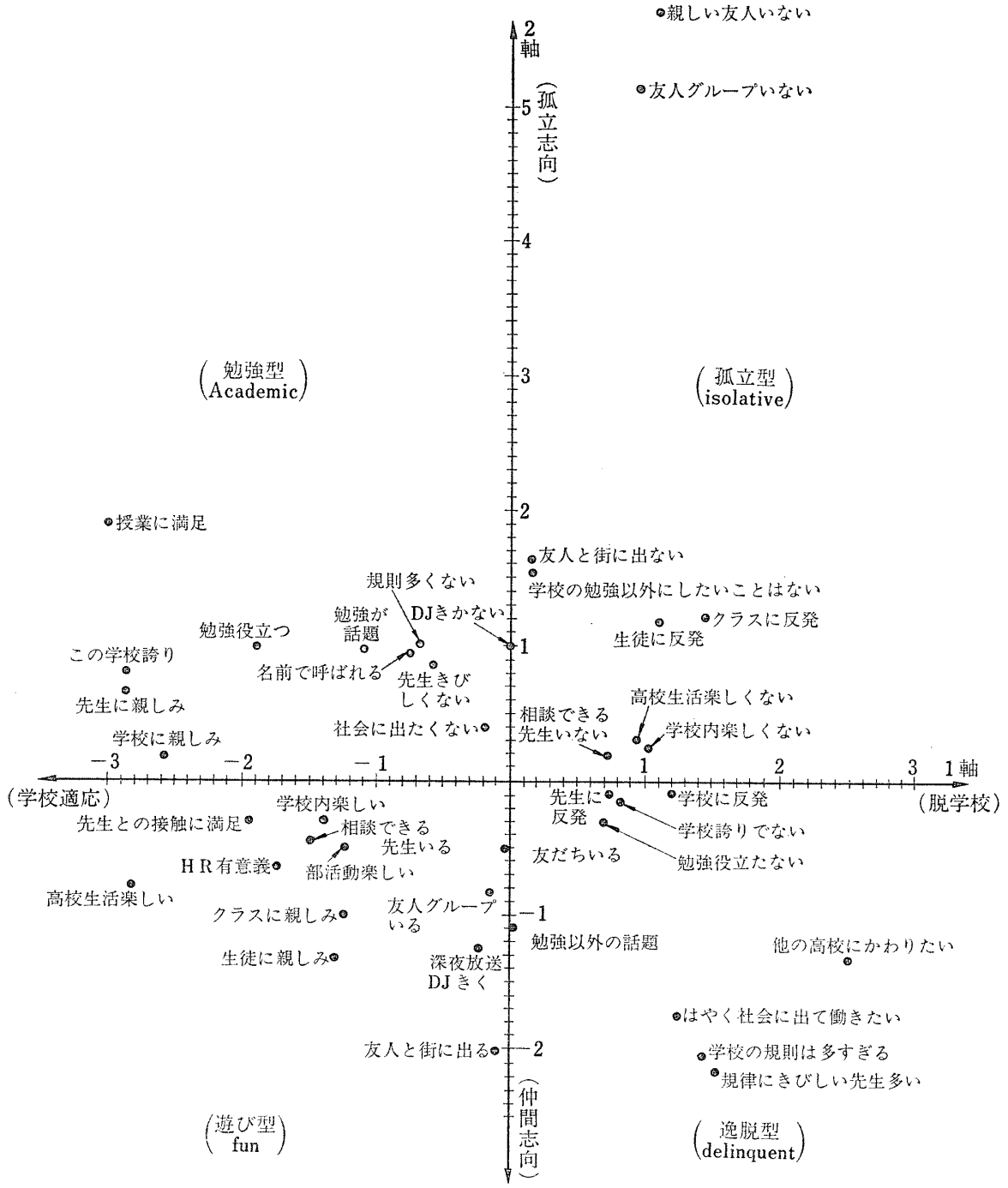
〔2〕 生徒文化の規定要因

(1) 個人的属性

図V—2は，生徒の性別，自由参加の部活動別，高校卒業の進路希望別をグループ変数にして，それぞれのサンプルスコアの平均点を示したものである。

性別でみると，1軸（学校適応—脱学校）に関しては，男女差はない。このことは，現在の高校教育の内容

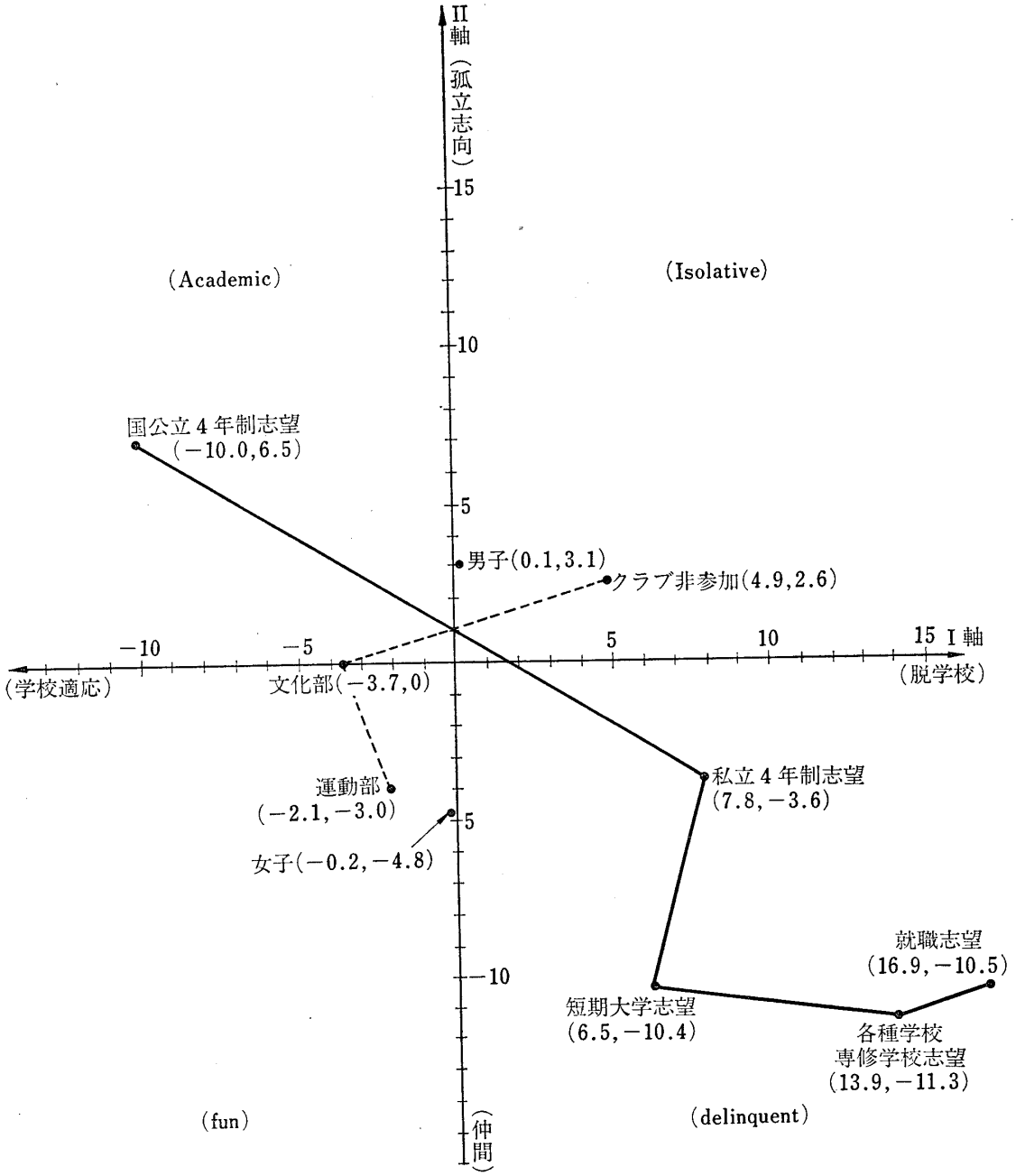
図V—1　生徒文化の構造（数量化Ⅲ類）



や方法が男女のどちらかに優位ということではないことを示している。一方2軸（仲間志向—孤立志向）に関しては，男子0.031，女子−0.048と多少，男子の方が孤立志向，女子の方が仲間志向という傾向がみられる。

次に自由参加の部（クラブ）や同好会への参加，部活動の種類別にみてみよう。部活動は，学校組織の中ではセミフォーマルな活動に属し，学校や教師の掲げるフォーマルな教育目標と生徒の側のインフォーマルな興味，関心との接点に位置し，相反する価値の統合をはかることが期待されている。図V—2に示されているように，部活動や同好会に参加したことのない生徒は，孤立・脱学校の孤立型，文化部の生徒は学校適応度が高く，運動部の生徒は，学校適応・仲間志向の遊び型になることがわかる。このように部活動に参加する生徒は，非参加の生徒にくらべ，学校生活への適応度が高くなる。多様な能力，適性，興味，関心を持った生徒が高校に通学する

図V—2　生徒文化の規定要因Ⅰ（個人）（サンプルスコアの平均点，×10^{-2}）



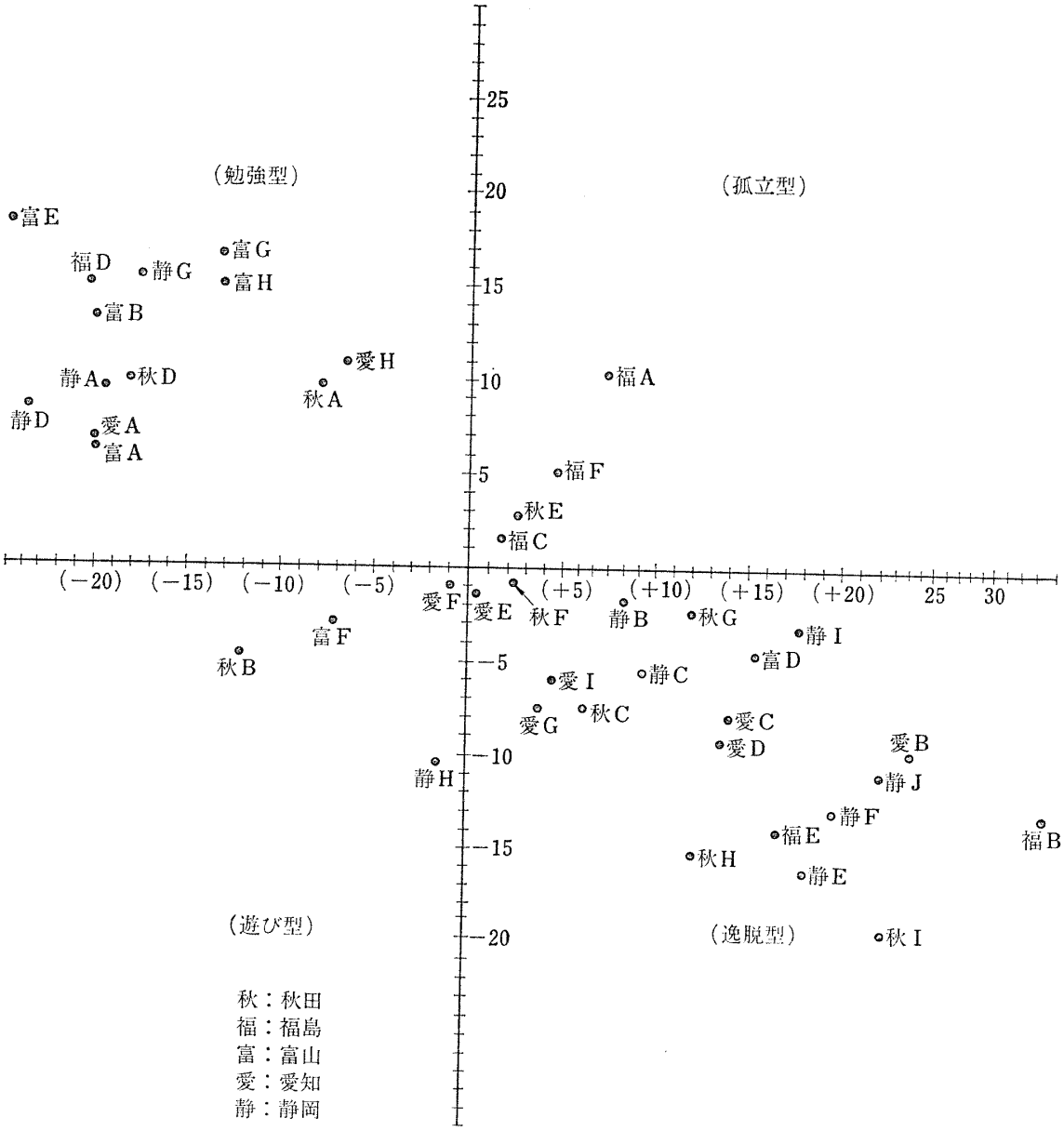
ようになっている現在，高校生の興味，関心をまず部活動というセミフォーマルな形で取り入れ，その活動の成果をみて，その中で教育的価値のあるものを，カリキュラムに取り入れていくというのは，今後の高校教育の進むべき方向の一つであろう。

最後に，高校卒業後の進路希望別にみてみよう。図V—2にはっきりあられわれているように，国公立4年制大学進学希望者が，学校適応・孤立の「勉強型」であるのに対し，それ以外の生徒たちは，脱学校・仲間志向の「逸脱型」であることがわかる。反学校，脱学校の意識は，就職希望者，各種学校・専修学校進学希望者に特に高い。現在の高校教育，とりわけ普通高校の教育は，より高い学歴をめざしての受験中心に行われ，それに適応，あるいは同調しない生徒は，自分たちの興味や関心を伸ばす機会も与えられないまま，学校の方針や規則に反発を感じつつ，三年間じっと耐えて過ごす姿がこの結果から読みとることができる。

(2)　学校組織，学校経営

学校がどのような教育目標をかかえ，どのような経営努力をしているかということは，きわめて大切なことで

図V—3　生徒文化（学校別）（サンプルスコアの平均点，×10⁻²）



あるが（VI章参照），それと同時に学校の教育目標や経営努力が生徒にどう受けとられ内面化され，それが生徒の意欲や態度にどう反映しているかということも，きわめて重要である。ここでは，学校別の生徒単位による集計をもとに，生徒に内面化された学校の組織的，経営的特色が生徒文化の内容にどう反映しているかを明らかにしよう。

まず，42校，それぞれは図V—3のように位置づく。

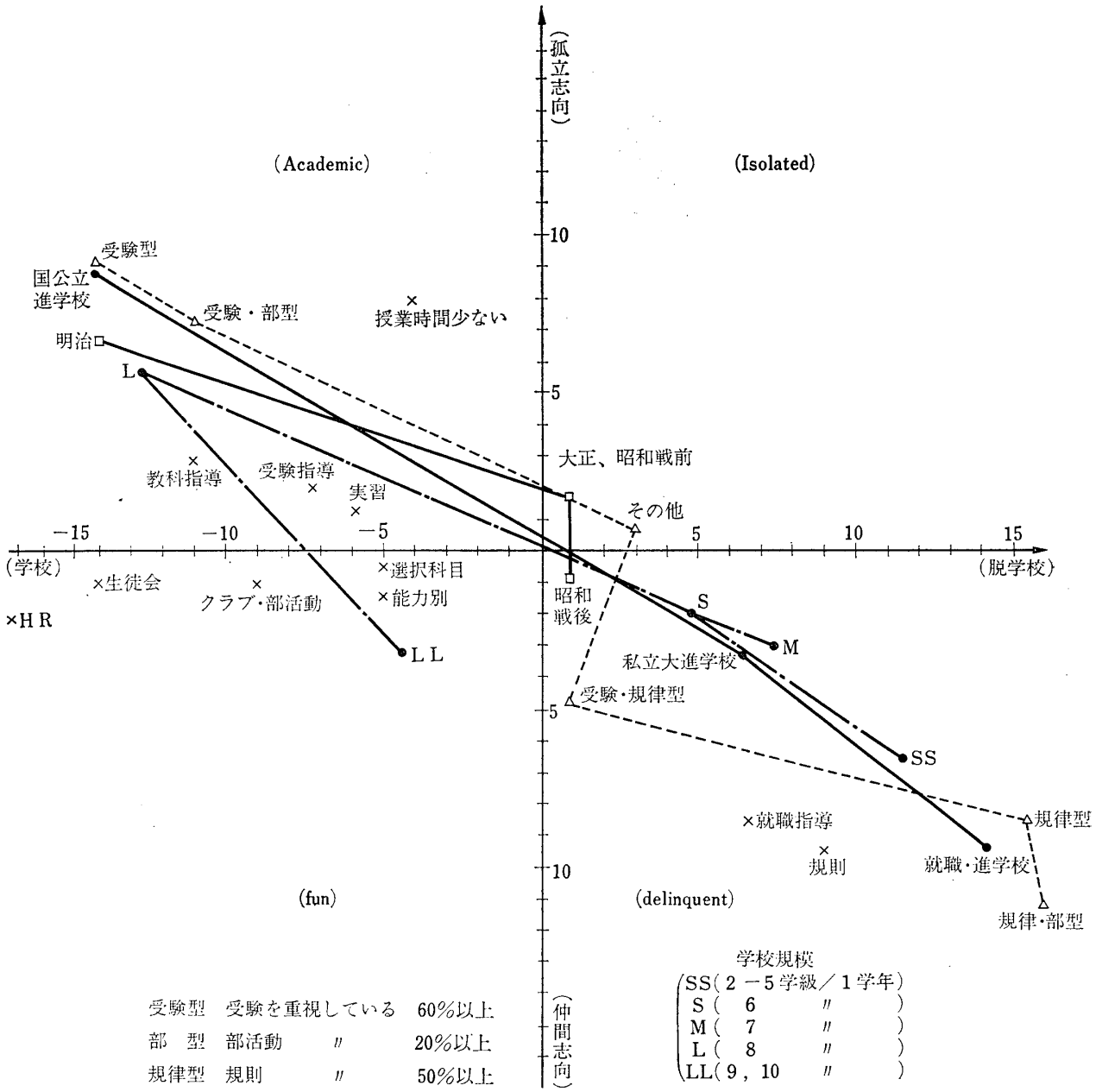
次に学校の組織上あるいは経営上の特色別の類型によって，それぞれの学校に属する生徒のサンプルスコアの平均点を示したのが図V—4である。

これによると，「勉強型」（Academic）の生徒文化が優位になるのは，明治時代に創立された伝統の古い学校，国公立4年制大学進学希望者の多い国公立進学校，受験指導を重視する受験型，あるいは受験と部活動を重視する学校，規模では1学年8学級の学校においてであることがわかる。

それに対し，脱学校・仲間志向の「逸脱型」（Delinquent）の生徒文化が優位になる学校は，昭和戦後に創設された伝統の新しい学校，就職希望者の多い就職・進学校，経営面では規律を重視する学校，規模では，1学年7学級以下，とりわけ5学級以下の小規模に多いことがわかる。

「遊び型」（Fun）と「孤立型」（isolated）の生徒文化

図V—4　生徒文化の規模要因Ⅱ（学校経営）（サンプルスコアの平均点，×10^{-2}）



を醸成しやすい学校組織あるいは経営上の特色というのは見当らない。これは現在の高校が，受験—非受験の一元的価値で序列化されていることの反映であろう。

生徒に内面化された学校経営の特色別（Q9）で，みたのが図V—4の×印である。「教科指導」「受験指導」「実習」の重視は，勉強型の生徒文化を，「HR活動」「生徒会」「部活動」の重視は，遊び型の生徒文化を，「規則」重視，「就職指導」重視は，逸脱型の生徒文化を形成しやすいことがわかる。このように生徒文化の形成には学校経営の特色，とりわけどのような教育方針の学校に自分がいて，どういう行動が期待されているかという生徒の側の認識が重要になっている。

(3)　学校規模

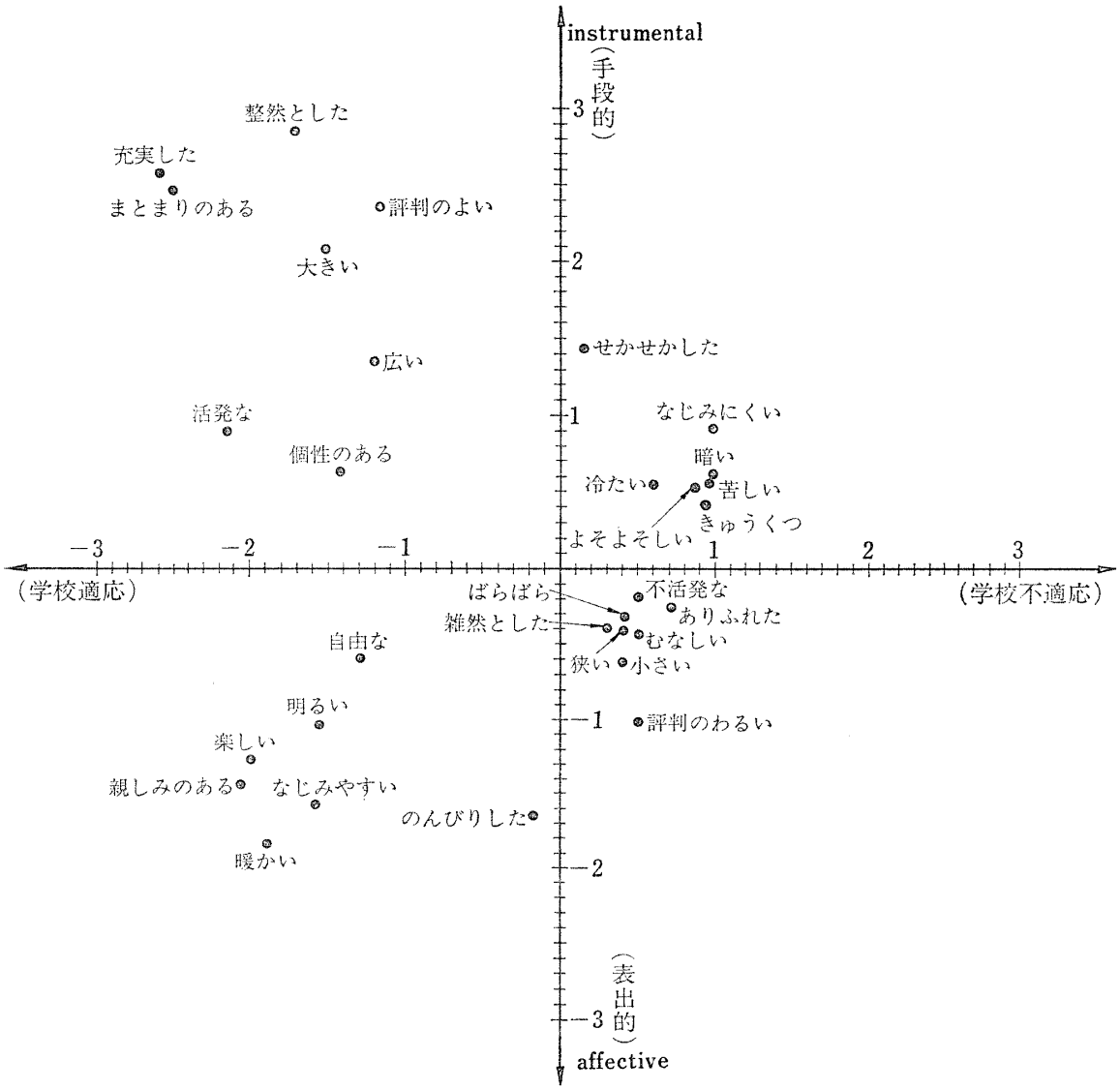
学校規模別に，SS（2～5学級），S（6学級），M（7学級），L（8学級），LL（9～10学級）でみると，7学級以下の小規模校は「逸脱型」の生徒文化が優位で，8学級中規模校になると「勉強型」生徒文化に移行し，さらに9～10学級の大規模校で「遊び型」生徒文化が優位になる。もちろん，これは，学校規模に学校の伝統，大学進学率，学校所在地等が，密接に絡んでの結果である。

最後に学校規模との関連で全体をまとめておこう。小

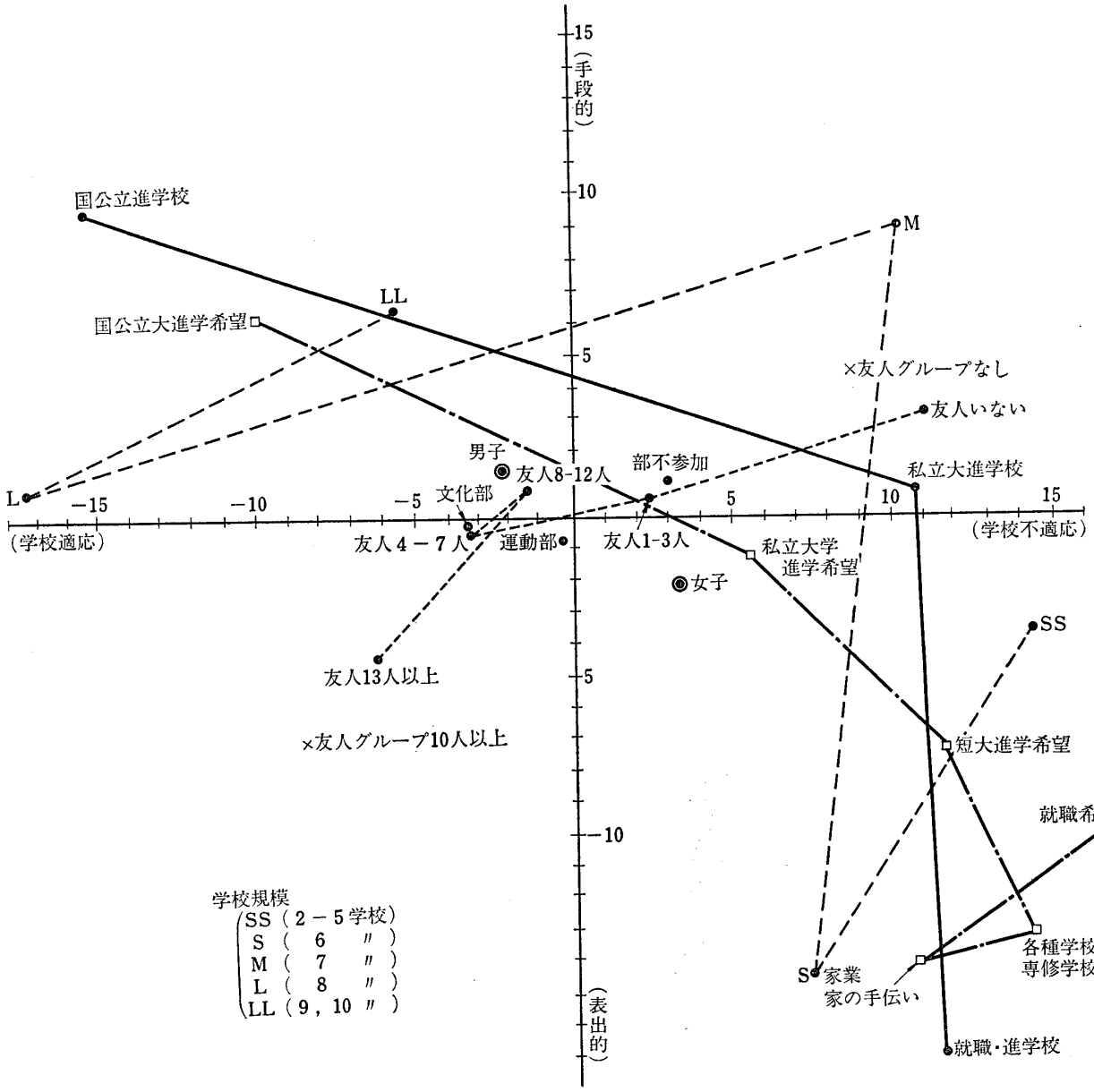
表V—3　カテゴリー・ウエイト表（学校イメージ）

1　軸				2　軸			
M　充実した	−2.65	C′　せかせかした	0.15	D　暖かい	−1.86	H′　窮屈な	0.39
L　まとまりのある	−2.50	N′　雑然とした	0.26	C　のんびりした	−1.64	F′　苦しい	0.55
E　活発な	−2.18	L′　ばらばらな	0.36	G　なじみやすい	−1.55	A′　暗い	0.56
I　親しみのある	−2.08	O′　狭い	0.40	I　親しみのある	−1.47	D′　冷たい	0.56
F　楽しい	−2.04	J′　小さい	0.44	F　楽しい	−1.31	I′　よそよそしい	0.57
D　暖かい	−1.88	M′　むなしい	0.46	K′　評判のわるい	−1.02	B　個性のある	0.61
N　整然とした	−1.69	K′　評判のわるい	0.52	A　明るい	−0.97	E　活発な	0.89
G　なじみやすい	−1.58	E′　不活発な	0.53	J′　小さい	−0.59	G′　なじみにくい	0.90
A　明るい	−1.56	D′　冷たい	0.58	H　自由な	−0.56	C′　せかせかした	1.42
J　大きい	−1.54	B′　ありふれた	0.69	O′　狭い	−0.48	O　ひろい	1.56
B　個性のある	−1.41	I′　よそよそしい	0.81	N′　雑然とした	−0.45	J　大きい	2.06
H　自由な	−1.30	F′　苦しい	0.85	M′　むなしい	−0.43	K　評判のよい	2.29
O　広い	−1.29	H′　窮屈な	0.90	L′　ばらばらな	−0.35	L　まとまりのある	2.43
K　評判のよい	−1.18	A′　暗い	0.91	B′　ありふれた	−0.30	M　充実した	2.53
C　のんびりした	−0.18	G′　なじみにくい	0.91	E′　不活発な	−0.22	N　整然とした	2.88
相　関　比		0.5022		相　関　比		0.3538	

図V—5　学校イメージの構造（数量化Ⅲ類，1軸，2軸カテゴリーウエイト）



図V—6　学校イメージの規定要因（サンプルスコアの平均点，×10⁻²）



規模校は，戦後の全国的な高校進学率の高まりの中で，農村部に戦後新設された学校で，就職希望者も多く，また受験競争での敗北感に悩む生徒もいて，学校は生活指導や規律の問題に日々直面している。生徒文化では，脱学校・仲間志向の「逸脱型」(Delinquent) の下位文化が優位になっている。

それに対し8学級規模の学校は，伝統の古い学校が多く，国公立4年制大学をめざす成績のよい生徒が多くいて，学校の受験中心の教育方針への順応型が多く，学校経営も一番やりやすい学校といえよう。生徒文化は，学校適応・孤立の「勉強型」(Academic) が優位になっている。

そして9～10学級と大規模校になると，多様な生徒をかかえ，受験だけでなく，部活動への配慮もして学校の経営を工夫していかざるを得なくなっている。生徒文化は，多少，学校適応，仲間志向の「遊び型」(Fun) が優位になってくる。

＜付＞　生徒個々の単位による学校イメージ（15項目，30カテゴリー）の数量化Ⅲ類による分析については，生徒文化のパターン分類とほぼ同様の傾向が示された。1軸学校適応—学校不適応，2軸手段的—表出的。結果だけを示し，説明を省略する。表V—3，図V—5，図V—6。　（武内　清）

Ⅵ　学校規模と学校経営

〔1〕　はじめに

本章においては，学校規模が学校経営のあり方にいかなる関連があるかについて考察する。学校経営というのは一般に「学校をして教育の効果を収めるのに最も適当な機関とするために必要な諸般の組織ならびにその運営をさす」(「教育経営事典1　p.271）ものであり，その基本課題は，

① 教育課程の編成ならびにその運営を中心とする教育計画
② 教職員および児童・生徒の編成
③ 施設設備の設置とその運営
④ 父母および地域住民の組織化とそれとの協力

などであると理解されている。(1)本研究においては，このうち①，②，③に関して調査対象校46校にアンケート調査を実施した。（回答者は原則として校長）本章の分析はこのアンケート調査の結果をまとめたものである。

調査項目は以下のようである。

(1) 教員の構成
① 教員数
② 平均年令
③ 教職経験年数
④ 現在校勤務年数

(2) 学校経営上特に力を入れている点
① クラブや部活動
② ホームルーム活動
③ 生徒会活動
④ 規則を守らせること
⑤ 教科の指導
⑥ 受験指導
⑦ 就職指導
⑧ 選択科目を多くすること
⑨ 実技・実習・実験を多くすること
⑩ 個人研究・自主ゼミの時間を多くすること
⑪ 授業の内容をできるだけ易しくすること
⑫ 全体の授業時間数を少なくすること
⑬ 能力・適性や進度に応じたクラス編成

(3) 現在の学校の施設・設備の整備状況
① 学校のまわりの環境
② 校舎
③ グラウンド
④ 体育館
⑤ 図書室
⑥ 理科の実験室・実験器具

(4) 現在の教育活動の状況
① 教科指導
② 生活指導・道徳教育
③ 進路・就職指導
④ 授業以外での生徒との接触
⑤ ホームルーム
⑥ 自由参加の部活動

(5) 生徒の自由参加の部（クラブ）活動
参加人数（運動部・文化部・その他の別）

(6) 現在の学校の生徒数についての評価（多過ぎるか，丁度よいか，少な過ぎるか，また理想的と考える学級数）

〔2〕　学校規模と教員構成

第一に，教員の平均年令，教職経験年数，現在校勤務年数と学校規模との関係をみると表Ⅵ—1のようである。

表Ⅵ—1　学校規模別にみた教員の平均年令，平均教職経験年数，平均現在校勤務年数

教員構成 ＼ 学校規模（学年学級数）	平均年令	平均教職経験年数	平均現在校勤務年数
2～5（N＝11校）	36.5歳	13.3年	4.4年
6　（N＝7校）	36.2	13.1	4.1
7　（N＝6校）	38.7	15.3	5.5
8　（N＝12校）	39.7	17.1	6.2
9～10（N＝10校）	39.7	16.9	6.8

（注）数値はすべて，各学校の平均の合計を学校数で除して算出したものである（私立校も含む）。

表Ⅵ—1に示したように，1学年の学級数が2～5，6，7，8，9～10の各グループ別に，教員の平均年齢をみると，それぞれ36.5歳，36.2歳，38.7歳，39.7歳。39.7歳となっており，わずかずつではあるが，学校規模が大きいほど教員の平均年齢が高くなる傾向があることがわかる。平均教職経験年数はそれぞれ13.3年，13.1年，15.3年，17.1年，16.9年となっており，年齢のばあいとほぼ同じ傾向がみられる。これは年齢と教職経験年数とが対応していることから当然のことといえる。また，平均現在校勤務年数は，各県の人事異動に関する政策と関係があるが，これも平均年齢，平均教職経験年数と同じように，学校規模が大きいほど長くなる傾向があることがわかる。

〔3〕 学校規模と学校経営上の努力

第二に，学校規模と各学校が行っている学校経営上の努力との関係について考察する。

表VI—2は，学校規模別に，

① クラブや部活動に力を入れている
② ホームルーム活動に力を入れている
③ 生徒会活動に力を入れている
④ 規則を守らせることに力を入れている
⑤ 教科の指導に力を入れている
⑥ 受験指導に力を入れている
⑦ 就職指導に力を入れている
⑧ 選択科目を多くしている
⑨ 実技，実習，実験を多くしている
⑩ 個人研究，自主ゼミの時間を多くしている
⑪ 授業の内容をできるだけ易しくしている
⑫ 全体の授業時間数を少くしている
⑬ 能力，適性や進度に応じたクラス編成をしている

という質問項目に対して「どちらともいえない」，「そう思わない」と消極的あるいは否定的に答えた学校の数をみたものである。

表VI—2によって，学校規模と学校経営上の努力との間に傾向性あるいは関連のありそうなものを拾ってみることにする。表中○印をつけたものは，調査対象校の半数以上が消極的あるいは否定的な反応を示したものである。これをみると，「実技・実習・実験を多くする」，「個人研究・自主ゼミの時間を多くする」，「全体の授業時間数を少なくする」という三項目に対しては，いずれの学校規模においても，調査対象校の半数以上が消極的あるいは否定的な回答をしている。このことは実技・実習・実験の充実による学習指導の改善とか，個人研究や自主ゼミの導入あるいは教師による学習指導を主体とした授業の時間数の削減などによって，生徒の自主的な学習を促進するというようなことは，学校規模の大小にかかわりなく，一般的に低調であることを意味しているといえるであろう。また，能力，適性や進度に応じたクラス編成についても，7学級規模においては消極的あるいは否定的な学校が半数に達してはいないが，全体とすればやはり，学校規模に関係なく消極的あるいは否定的であるといってよいであろう。

クラブや部活動については，6学級規模とのばあいに，半数以上（7校中4校）が消極的あるいは否定的であるが，調査対象校中，最小規模グループ（2～5学級），中間規模グループ（7学級），最大規模グループ（9～10学級）においては，消極的あるいは否定的な学校は，それぞれ11校中1校，6校中1校，10校中3校にすぎず，ほとんどの学校が積極的に力を入れている。つまり，クラブや部活動を学校経営上力を入れるかどうかは，とくに学校規模とは直接的な関連を有していないことがわかる。

一方，「規則を守らせること」，「教科の指導に力を入れること」については，いずれの学校規模においても，ほとんどあるいは全部の学校が消極的あるいは否定的である。つまり，ほとんどの学校がこれらのことには力を入れている。しかし，教科の指導のばあいには，7学級以上の規模では消極的あるいは否定的な学校がゼロであるのに対して，2～5学級規模および6学級規模においては，それぞれ11校中3校，7校中1校そのような学校が存在している。学校が教科指導に力を入れることは少くともタテマエとしては当然のことであるにもかかわらず，それに消極的あるいは否定的な反応を示す学校が比率的小規模な学校にみられることは注目すべきであろう。これらの学校の類型をみるとすべて「就職進学」志向型である。

教科指導と関連して，「受験指導に力を入れている」についてみると，調査対象校中半数以上が消極的あるいは否定的に回答したのは，最小学校規模である2～5学級規模においてだけとなっている。これらの6校もすべ

表VI—2　学校経営上の努力項目に消極的，否定的な学校の数

（○印：半数以上）

学校規模（学年当り学級数） ＼ 学校経営上の努力項目	クラブ・部活動 ①	ホームルーム ②	生徒会 ③	規則を守らせる ④	教科指導 ⑤	受験指導 ⑥	就職指導 ⑦	選択科目 ⑧	実技実習実験 ⑨	個人研究自主ゼミ ⑩	授業の内容 ⑪	授業時間数 ⑫	クラス編成 ⑬
2～5（N＝11校）	1校	⑥校	5校	1校	3校	⑥校	3校	4校	⑦校	⑩校	4校	⑩校	⑦校
6（N＝7校）	④	④	⑤	1	1	3	④	⑤	④	⑥	④	⑦	④
7（N＝6校）	1	⑤	④	2	0	0	③	③	④	⑥	⑥	⑥	3
8（N＝12校）	4	⑧	⑦	4	0	2	⑨	⑧	⑩	⑫	⑫	⑫	⑪
9～10（N＝10校）	3	5	4	2	0	4	⑧	⑥	⑦	⑨	⑩	⑪	⑩

て「就職進学」志向型の学校であり，このなかには，教科指導に関して消極的あるいは否定的に答えた3校が含まれている。

次に，就職指導についてみると受験指導のばあいとは対照的に，最小規模のグループにおいてのみ，消極的あるいは否定的学校が半数に達していない。つまり，半数以上が就職指導に力を入れている。これは2～5学級規模の調査対象学校11校のほとんど（8校）が「就職進学」志向型に属していることと深い関係があるといえるであろう。

以上のほか表Ⅵ—2において注目されることは，「選択科目を多くするようにしている」に対して消極的あるいは否定的な学校が，2～5学級規模のばあいだけ調査対象校の半数に達していないこと，また，「ホームルーム活動に力を入れている」という項目については，最大学校規模のグループ（9～10学級）のばあいのみ，消極的あるいは否定的学校が半数に達していないことである。このことは第一に，小規模な学校においては，選択科目を多く設けようと思っても現実には困難であること，第二に，大規模な学校においては，生徒間や教師生徒間の人間関係を密接にする必要性が，中規模あるいは小規模な学校のばあいよりも強く感じられているために，ホームルーム活動にとくに力を入れようとしていること，を意味しているように思われる。

〔4〕 学校規模と施設・設備の整備状況

次に，学校のまわりの環境，校舎，グラウンド，体育館，図書室，理科の実験室・実験器具について，各学校がその整備状況をどのように考えているか，それが学校規模といかなる関係にあるかについて考察する。

質問は各項目について，「充分」，「やや不充分」，「とても不充分」のいずれかへの指摘を求めたものであるが，表Ⅵ—3は，「とても不充分」と答えた学校の数を学校規模別にみたものである。

表Ⅵ—3 施設・設備の整備状況を「とても不充分」と考える学校の数 （○印：半数以上）

	環境	校舎	グラウンド	体育館	図書室	実験室・実験器具
2～5学級（N＝11校）	5校	5校	4校	⑥校	⑦校	⑦校
6（N＝7校）	0	④	⑥	④	3	3
7（N＝6校）	0	2	2	④	④	⑤
8（N＝12校）	⑦	⑨	⑧	⑧	⑥	⑩
9～12（N＝10校）	⑤	⑧	⑧	⑦	⑦	⑥

表Ⅵ—3によると，学校規模の大きくなるほど，あるいは小さくなるほど，施設・設備の整備状況が良くなったり，悪くなったりする傾向はみられない。しかし，8学級規模と9～12学級規模の学校ではいずれの項目においても「とても不充分」と考える学校が半数以上になっていることは注目すべきであろう。ただ，上の表が示す施設・設備の整備状況は必ずしも客観的な整備状況ではない。各学校の主観的評価が加わったところの整備状況である。例えば，客観的には同じグラウンドであっても，クラブや部活動に力を入れようとしている学校とそうではない学校とでは，その整備状況についての評価は同じではないであろう。前者の学校のばあいにはおそらく整備状況が充分でないと考える傾向が強くなるであろうし，逆に，後者の学校のばあいには，不満意識は小さくなるにちがいない。つまり，学校経営の志向度と施設・設備の整備状況の評価との間には，

学校経営志向大——→施設等の評価小

学校経営志向小——→施設等の評価大

という対応関係があるのではないかと仮説的に考えられる。

しかし，施設・設備の整備状況についての学校による評価は上のように学校経営の志向方向によって規定されるだけでなく，同時に前者を規定しているとも考えられる。つまり，施設・設備がととのっていれば，それを活用するような学校経営の志向が強くなるであろう。すなわち，学校経営の志向度と施設・設備の整備状況との間には，

施設等の評価大——→学校経営志向大

施設等の評価小——→学校経営志向小

という関係もあることが想定される。

そこで上の二つの相異なる方向の関係のうちいずれが強いかについて次に若干の考察を試みてみたい。

表Ⅵ—4と表Ⅵ—5は，「クラブや部活動」について

表Ⅵ—4 「クラブや部活動」に対する学校経営の努力度と「グラウンド」の整備状況に対する学校の評価

グラブ部＼グラウンド	充分	不充分
積極的	13校	20校
消極的または否定的	5校	8校

表VI—5　「クラブや部活動」に対する学校経営の努力度と「体育館」の整備状況に対する学校の評価

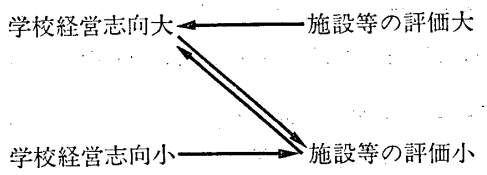
クラブ・部＼体育館	充　分	不充分
積　極　的	11校	22校
消極的または否定的	5校	8校

の学校経営上の努力度と，「クラブや部活動」と関係が深いと思われる「グラウンド」と「体育館」の整備状況についての評価とをクロスさせたものである。

上の表において，「積極的」というのは，「クラブや部活動に力を入れている」という項目に対して，「そう思う」と答えた学校，「消極的または否定的」というのは，同じ項目に対して，「どちらともいえない」または「そう思わない」と答えた学校である。また，「充分」というのは「グラウンド」または「体育館」の整備状況について「充分である」と答えた学校，「不充分」というのは「やや不充分」または「とても不十分」と答えた学校である。つまり，積極的というのは，学校経営志向大を，消極的または否定的というのは学校経営志向小を，また，「充分」は施設等の評価大を，「不充分」は施設等の評価小をそれぞれ意味している。

そこで表VI—4と表VI—5をみると，クラブや部活動に積極的な学校33校中，グラウンドの整備状況を「充分」とする学校は13校（39.4%），「不充分」とする学校は20校（60.6%）となっており，また，体育館の整備状況を「充分」とする学校は11校，「不充分」とする学校は22校となっている。また，クラブや部活動に消極的または否定的な学校13校のうち，グラウンドを「充分」とする学校5校（38.5%），「不充分」とする学校8校（61.5%）であり，体育館のばあいにも同じように「充分」5校（38.5%），「不充分」8校（61.5%）となっている。このことはグラブ・部活動とグラウンドまたは体育館との間には，「学校経営志向大→施設等の評価小」「学校経営志向小→施設等の評価小」という関係が傾向としてみられることを示唆しているといえよう。一方，グラウンドを「充分」と考える学校18校中積極的学校は13校（72.2%），消極的または否定的学校は5校（27.8%）であり，「不充分」とする学校28中，積極的学校は20校（71.4%），消極的または否定的学校は8校（28.6%）となっている。また，体育館を「充分」と考える学校30校中，積極的学校は22校（73.3%），消極的または否定的学校は8校（26.7%）となっている。このことはグラウンドまたは体育館とクラブ・部活動との間には，「施設等の評価大→学校経営志向大」という関係はあるが，「施設等の評価小→学校経営志向小」という関係はみられないことがわかる。逆に「施設等の評価小→学校経営志向大」となっているのである。このことは，学校にはたとえ施設設備の整備状況が良くなくても，その悪条件の中で効果をあげるため経営上の努力をしている学校が多いことを物語っているといえるであろう。以上の諸関係を図示すると図VI—1のようになる。

図VI—1　クラブや部活動についての学校経営志向と施設等の評価



以上は施設・設備の整備状況に対する評価とクラブや部活動についての学校経営志向と施設等の評価との間の関係であるが，次に，教科の指導についての学校経営努力の程度と施設設備の整備状況との関係について考慮することにする。教科指導の学校経営上の項目としては「実技，実習，実験」を，また，施設・設備としては「理科の実験室，実験器具」をとりあげることにする。この両項目の関係をみると表VI—6のようになる。

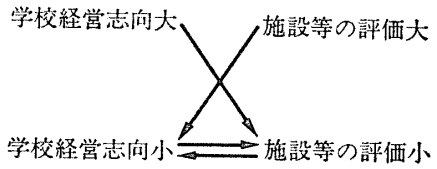
表VI—6　「実技，実習，実験」に対する学校経営の努力度と「理科の実験室，実験器具」の整備状況に対する学校の評価

実験等＼実験室等	充　分	不充分
積　極　的	3	11
消極的または否定的	12	20

表VI—6を「クラブや部活動」のばあいと同様の方法で分析してみると，「実技，実習，実験を多く」することに積極的な学校14校中，「理科の実験室，実験器具」を「充分である」と考える学校は3校（21.4%），「やや不充分」または「とても不充分」と考える学校は11校（78.6%）となっており，また，「実技，実習，実験を多く」することについて「どちらともいえない」または「そう思わない」と答えた学校，つまり消極的または否定的な学校32校中，実験室等を「充分である」と考える学校は5校（15.6%），「やや不充分」または「とても不充分」と考える学校は20校（84.4%）となっている。こ

のことは実技，実習，実験についての学校経営上の志向と実験の施設・設備の整備状況の評価との間には，クラブ・部活動のばあいと同じように，「学校経営志向大→施設等の評価小」，「学校経営志向小→施設等の評価小」という関係が傾向としてみられることを示唆している。一方，実験室・実験器具を「充分である」とする学校15校中，実技・実習・実験に力を入れている学校は3校（20%），消極的または否定的な学校は12校（80%）となっており，また，実験室実験器具を不充分とする学校31校中，実技・実習・実験に積極的な学校は11校（35.5%），消極的または否定的な学校は20校(64.5%)となっている。このことは「施設等の評価大→学校経営志向小」，「施設等の評価小→学校経営志向小」という関係を示唆している。以上を図示してみると図VI—2のようになる。

図VI—2　実技・実習・実験についての学校経営志向と施設等の評価



以上の分析から，クラブ・部活動のばあいには，「学校経営志向大→施設等の評価小」，「施設等の評価大→学校経営志向大」という仮設が検証されたが，「学校経営志向小→施設等の評価大」，「施設等の評価小→学校経営志向小」という仮説は検証されなかった。つまり，グラウンドや体育館の整備状況の評価は学校経営上の努力の大小にかかわらず低くなる傾向があるが，一方，施設等の評価は低くても，学校経営上の努力がなされている学校が多いことがわかる。

一方，教科指導については，少くとも実技，実習，実験の領域では「施設等の評価小→学校経営志向小」という傾向はみられるが，他の仮説的傾向はみられない。実験などは施設設備が充実していないときはもちろんのこと，それがたとえ充実しているばあいでも，それを生かす方向の経営努力が必ずしも払われていないことを物語っている。

〔5〕 学校の経営努力と実際の教育活動状況

まず第一に，学校規模別に，現在の教育活動について，それぞれ「とてもうまくいっている」「まあまあ」「多少問題がある」と答えた学校の数をみると表VI—7のようである。

表VI—7　学校規模にみた教育活動状況

(1) 教科指導

規　　模		とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級	(N=11)	0校	7校	4校
6	(N=7)	2	5	0
7	(N=6)	2	3	1
8	(N=12)	2	9	1
9～10	(N=10)	2	7	1

(2) 生活指導，道徳教育

規　　模		とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級	(N=11)	11校	11校	0校
6	(N=7)	5	5	0
7	(N=6)	4	4	0
8	(N=12)	8	8	3
9～10	(N=10)	6	6	1

(3) 進路，就職指導

規　　模		とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級	(N=11)	1校	10校	0校
9	(N=7)	3	4	0
7	(N=6)	3	3	0
8	(N=12)	4	8	0
9～10	(N=10)	4	6	0

(4) 授業以外での生徒との接触

規　　模		とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級	(N=11)	2校	8校	1校
6	(N=7)	3	4	0
7	(N=6)	1	4	1
8	(N=12)	2	9	1
9～10	(N=10)	2	6	2

(5) ホーム・ルーム

規模	とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級 (N=11)	0校	0校	1校
6 (N=7)	3	4	0
7 (N=6)	0	6	0
8 (N=12)	2	8	2
9～10 (N=10)	2	8	0

(6) 自由参加の部活動

規模	とてもうまくいっている	まあまあ	多少問題がある
2～5学級 (N=11)	1校	8校	2校
6 (N=7)	1	6	0
7 (N=6)	2	3	1
8 (N=12)	1	9	2
9～10 (N=10)	3	6	1

表VI—8 学校経営と施設・設備と教育活動との関係

類型 ＼ 学校規模	2～5学級 (N=11)	6学級 (N=7)	7学級 (N=6)	8学級 (N=12)	9～10学級 (N=10)	合計 (N=46)
＋ ＋ ＋	0校	0校	1校	0校	0校	1校
＋ ＋ －	5	0	2	3	3	13
＋ － ＋	0	2	1	1	2	6
＋ － －	4	1	1	4	3	13
－ ＋ ＋	0	0	0	0	0	0
－ ＋ －	1	1	1	1	0	4
－ － ＋	0	0	0	1	0	1
－ － －	1	3	0	2	2	8

表VI—7から推察されるように，実際の教育活動の状況は必ずしも学校規模とは直接に関係がない。いずれの規模においても「とてもうまくいっている」学校の数は少いことがわかる。このような実際の教育活動の状況は，学校経営上の努力や施設・設備の状況と相互に関連しあう結果としてあらわれたものといえる。調査対象校が少いため数量的に処理することができないが，類型的には，「学校経営に力を入れている」について「そう思う」，施設・設備の整備状況について，「充分」，現在の教育活動について「とてもうまくいっている」をそれぞれ＋とし，「どちらともいえない」または「そう思わない」，「やや不充分」または「とても不充分」，「まあまあ」または「多少問題」を－とすれば，次のような八つの関係が考えられる。

学校経営	＋	＋	＋	＋	－	－	－	－
施設設備	＋	＋	－	－	＋	＋	－	－
教育活動	＋	－	＋	－	＋	－	＋	－

試みに，学校経営努力として「クラブ・部活動」を，施設・設備として「グラウンド」を，また教育活動として「自由参加の部活動」をとりあげて，上の八つの類型別に学校数を調べてみると表VI—8のようになる。

表VI—8が示すように，特定の学校規模と特定の類型が対応しているとはかぎらないが，全般的にみれば，＋＋－と＋－－がそれぞれ13校で最も多くなっていることがわかる。つまり，施設・設備の状況の良し悪しにかかわらず，いくら経営上の努力を払っても教育活動は「とてもうまくいく」ことはきわめて少いことがわかる。

この面について明らかにするためには，より詳しい調査を行わなくてはならない。今後の課題である。

（新井郁男）

1 2 3 4

あなたの高校生活 1976.

東京大学教育社会学研究室
研究代表者 教授 清 水 義 弘

このアンケートは、みなさんが現在の高校生活についてどのような考えをもっておられるかをおたずねするものです。

アンケートは無記名ですし、結果はすべて統計的に処理しますので、みなさんにご迷惑のかかることは決してありません。

ありのままにお答えください。

5 Q1. 学校名 [　　] 高校

6 Q2. 学年・組　2 年 [　] 組

7 Q3. 性　別　1. 男　2. 女

8 Q4. あなたの通学時間(片道の時間)は、どのくらいですか。

1. ～ 29分
2. 30～ 59分
3. 60～ 89分
4. 90～119分
5. 120分以上

Q5. あなたは、現在通っている高校について、どのようなイメージを持っていますか。あまり深く考えることなく、それぞれについて当てはまるところに○を付けてください。

	非常に↓	かなり↓	中間↓	かなり↓	非常に↓	
(例) 重い				○		軽い
9 A 明るい						暗い
10 B 個性のある						ありふれた
11 C のんびりした						せかせかした
12 D 暖かい						冷たい
13 E 活発な						不活発な
14 F 楽しい						苦しい
15 G なじみやすい						なじみにくい
16 H 自由な						窮屈な
17 I 親しみのある						よそよそしい
18 J 大きい						小さい
19 K 評判のよい						評判のわるい
20 L まとまりのある						ばらばらな
21 M 充実した						むなしい
22 N 整然とした						雑然とした
23 O 広い						狭い

Q6. 次に、いまの学校の友人や付き合いについてお尋ねします。

A. 個人的に親しく付き合っている友人は何人くらいいますか。

24 1. いない. 2. 1～3人 3. 4～7人 4. 8～12人 5. 13人以上

B. あなたは、学校のなかで仲のよい友人グループを持っていますか。持っている場合、それはあなたも含めて何人くらいのグループですか。

25 1. 持っていない 2. 2～4人 3. 5～9人 4. 10人以上

→C. (2, 3, 4と答えた人にお尋ねします) その友人グループができたきっかけは主にどんなことですか。一つ選んで○を付けてください。

26
1. クラスが同じ
2. クラブや部や同好会がいっしょ
3. その他(具体的に　　)

→D. (2, 3, 4と答えた人にお尋ねします) その友人グループでは、どんなことが主に話題になりますか。一つ選んで○を付けてください。

27
1. 勉強や入試のこと
2. 部やクラブや同好会のこと
3. 学校や家での出来事
4. 歌手やスターやスポーツのこと
5. 異性のこと
6. 文学・思想・社会問題
7. その他(具体的に　　)

Q7. 次に、この学校の先生について伺います。

A. 名前を知っている先生は、何人くらいいますか。

28 1. 10人以内 2. 15人くらい 3. 20人くらい 4. 25人以上

B. 個人的に話したりする先生は、何人くらいいますか。

29 1. いない 2. 1～3人 3. 4～7人 4. 8人以上

C. 個人的にいつでも相談できる先生は、何人くらいいますか。

30 1. いない 2. 1～3人 3. 4～7人 4. 8人以上

D. この学校には、どういう先生が多いですか。次の中から一つ選んで○を付けてください。

31
1. 専門の研究にすぐれている先生
2. 授業に熱心な先生
3. 何でも気楽に相談できる先生
4. 規律にきびしい先生
5. その他(具体的に　　)

E. どういう先生に教わりたいと思いますか。上から一つ選んで番号を書いてください。 → [　]

32

F. 授業中、先生からの指名は、主に次のうちのどの方法によってなされていますか。一つに○を付けてください。

33
1. 必ず名前が呼ばれる
2. 名前で呼ばれたり、番号で呼ばれたり、指差されたりする

Q 8. 現在の学校の全体の生徒数は多過ぎると思いますか。少な過ぎると思いますか。

34 □ 1. 多過ぎる　2. 丁度よい　3. 少な過ぎる

Q 9. あなたの学校の教育面の特色と思われることは何ですか。A～Mのそれぞれについて、当てはまる番号に○を付けてください。

		1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない
35	A クラブや部活動に力を入れている	1	2	3
36	B ホームルーム活動に力を入れている	1	2	3
37	C 生徒会活動に力を入れている	1	2	3
38	D 規則を守らせることに力を入れている	1	2	3
39	E 教科の指導に力を入れている	1	2	3
40	F 受験指導に力を入れている	1	2	3
41	G 就職指導に力を入れている	1	2	3
42	H 選択科目が多い	1	2	3
43	I 実技や実習や実験が多い	1	2	3
44	J 個人研究や自主ゼミの時間が多い	1	2	3
45	K 授業の内容をできるだけ易しくしている	1	2	3
46	L 全体の授業時間数が少ない	1	2	3
47	M 能力・適性や進度などに応じたクラス編成をしている	1	2	3

Q 10. あなたが、学校で特に力を入れてほしいと思うことは、上(Q 9)のうちのどれですか。一つ選んで□の中に記号を入れてください。

48 □ → □

Q 11. あなたは、いまの学校や先生やクラスや生徒に対してどのように感じていますか。A～Dのそれぞれについて、当てはまる番号に○を付けてください。

		とても親しみを感じる	やや親しみを感じる	どちらともいえない	やや反発を感じる	とても反発を感じる
49	A 学校に対して	1	2	3	4	5
50	B 先生に対して	1	2	3	4	5
51	C クラスに対して	1	2	3	4	5
52	D 生徒に対して	1	2	3	4	5

Q 12. 現在通っている高校での生活について、A～Kのそれぞれについて、当てはまる番号に○を付けてください。

		1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない
53	A この学校の勉強は、将来のために役立つ	1	2	3
54	B 先生の授業に満足している	1	2	3
55	C 授業以外での先生との接触に満足している	1	2	3
56	D ホームルーム活動は有意義である	1	2	3
57	E 部(クラブ)活動は楽しいことが多い	1	2	3
58	F 学校の勉強以外にもっとしたいことがある	1	2	3
59	G この学校の規則は多すぎる	1	2	3
60	H この学校の生徒であることは誇りである	1	2	3
61	I 現在の高校での生活は楽しい	1	2	3
62	J できることなら、他の高校にかわりたい	1	2	3
63	K はやく社会に出て働きたい	1	2	3

Q 13. 次に、学校外の生活についてお尋ねします。

A. 学習塾(進学塾など)に通ったり、家庭教師についたりしていますか。

64 □ 1. している　2. していない

B. 大学受験のための通信添削を受けていますか。

65 □ 1. 受けている　2. 受けていない

C. 友だちとショッピングをしたり、街に出たりすることがありますか。

66 □ 1. よくある　2. あまりない

D. ラジオの深夜放送やDJをよくききますか。

67 □ 1. よくきく　2. あまりきかない

E. 学校外の生活の中で一番楽しいことは何ですか。自由に書いてください。

68 □

F. 学校にいる時間と、学校外にいる時間とでは、どちらが楽しいことが多いですか。

69 □ 1. 学校にいる時間　2. 学校外にいる時間

Q 14. あなたは、次の点で、どのように感じていますか。A～Fのそれぞれについて、当てはまるところに○を付けてください。

		1 とても満足している	2 まあ満足している	3 ふつう	4 やや不満がある	5 とても不満がある
70	A 学校のまわりの環境には	1	2	3	4	5
71	B 校舎には	1	2	3	4	5
72	C グラウンドには	1	2	3	4	5
73	D 体育館には	1	2	3	4	5
74	E 図書室には	1	2	3	4	5
75	F 理科の実験室、実験器具には	1	2	3	4	5

Q１5. 自由参加の部(クラブ)活動や同好会活動についてお尋ねします。

A. あなたは、現在自由参加の部(クラブ)や同好会に参加していますか。次の中から一つ選んで○を付けてください。

76 □

1. 参加している
2. 以前に参加していたが、今は入っていない
3. 参加したことはない

→(１と答えた人にお尋ねします) その部は、次のうちのどれですか。二つ以上の部に入っている人は、主として活動している部についてお答えください。

77 □

1. 文化部　2. 運動部　3. その他の部(具体的に　　)

B. 現在の部(クラブ)活動や同好会活動を活発にするためには、どういう点を改善したらよいと思いますか。一つ選んで○を付けてください。

78 □

1. もっと先生や先輩の指導を多くする
2. 施設や設備や用具を充実する
3. 部員同士の人間関係をよくする
4. 部員の数をもっと多くする
5. 部員の数をもっと少なくする
6. いろいろな部(クラブ)や同好会をつくる
7. 勉強と両立できるようにする
8. 帰宅時間が遅くならないようにする
9. 家の人の理解を深める
10. その他(具体的に　　)

Q１6. あなたが希望する卒業後の進路は次の中のどれですか。一つ選んで○を付けてください。就職・進学希望の方は、進学先についてお答えください。

79 □

1. 就　職
2. 家業・家の手伝い
3. 各種学校・専修学校
4. 短期大学
5. 4年制大学(私立)
6. 4年制大学(国公立)
7. その他(具体的に　　)

→(4, 5, 6, 7と答えた人にお尋ねします) そこで、あなたは主にどんなことをしたいと考えていますか。次の中から一つ選んで○を付けてください。

80 □

1. 幅広い教養を身につける
2. 専門的な知識や技術を身につける
3. 実生活に役立つ知識や技術を身につける
4. 青春を楽しむ
5. 何となく過ごす
6. わからない
7. その他(具体的に　　)

ご協力ありがとうございました

「高校適正規模調査」集計表

調査時期　1976年11～12月　一斉自記方式　42校 5,798名

※国公立年制大学進学希望率による（Q16A）
100～70%→国公立進学校
69～30%→私立大　〃
29%～　→就職進学校

		全体	性別（不明11） 男子	性別（不明11） 女子	学校類型別※ 国公立大進学校	私立大進学校	就職進学校	学校規模別（大←→小） LL 9～10学級	L 8学級	M 7学級	S 6学級	SS 2～5学級	県別 秋田県	福島県	富山県	愛知県	静岡県	番外 東京（私立高）
サンプル校数		42			17	12	13	9	12	6	6	9	9	6	8	9	10	4
サンプル数		5,798	3,501	2,286	2,429	1,635	1,731	1,319	1,671	928	658	1,222	1,169	794	1,123	1,176	1,536	548
Q3	性別 男子	60.4	100.0	0	70.7	58.6	47.7	56.8	67.5	73.3	54.7	47.9	63.0	48.6	64.2	55.4	65.6	58.2
	性別 女子	39.5	0	100.0	29.2	41.3	52.1	43.1	32.3	26.7	45.1	51.9	36.9	51.3	35.6	44.3	34.4	41.8
Q4	通学時間（片道） (1) ～29分	46.2	47.1	44.8	46.6	45.4	46.4	44.7	45.7	50.0	39.7	49.1	45.3	49.6	44.1	43.1	49.0	10.6
	通学時間（片道） (2) 30～59分	37.7	36.8	39.3	38.3	32.4	42.1	34.6	41.6	29.5	45.6	37.9	33.9	31.9	43.8	39.8	37.7	55.5
	通学時間（片道） (3) 60分～	13.6	13.7	13.5	13.3	19.1	8.9	19.4	10.7	15.4	12.3	10.7	19.9	16.2	10.1	14.2	9.5	31.0
Q5	通っている高校についてのイメージ（中間0とする） A 明るい（＋）―暗い（－）	0.31	0.29	0.33	0.41	0.19	0.27	0.39	0.47	0.16	0.34	0.07	0.26	0.32	0.33	0.27	0.34	0.18
	B 個性のある―ありふれた	−0.01	0.05	−0.10	0.36	−0.32	−0.23	0.09	0.30	−0.17	−0.21	−0.21	−0.04	−0.01	0.17	−0.07	−0.07	0.36
	C のんびりした―せかせかした	0.30	0.24	0.39	−0.03	0.22	0.83	0.13	0.24	0.11	0.71	0.80	0.39	0.31	−0.12	0.37	0.47	0.43
	D 暖かい―冷たい	0.00	−0.04	0.05	−0.02	−0.11	0.12	−0.05	0.14	−0.25	0.14	−0.04	−0.02	0.03	−0.02	−0.02	0.01	−0.07
	E 活発な―不活発な	−0.27	−0.25	−0.31	−0.00	−0.43	−0.50	−0.14	−0.07	−0.40	−0.35	−0.56	−0.36	−0.12	−0.14	−0.41	−0.29	−0.43
	F 楽しい―苦しい	0.11	0.07	0.17	0.24	0.00	0.10	0.15	0.29	−0.06	0.10	−0.05	0.15	0.12	0.09	0.07	0.11	−0.12
	G なじみやすい―なじみにくい	0.18	0.17	0.21	0.21	0.09	0.29	0.18	0.34	−0.03	0.21	0.12	0.24	0.19	0.11	0.18	0.19	−0.09
	H 自由な―窮屈な	0.11	0.11	0.12	0.45	−0.17	−0.10	0.39	0.50	−0.30	0.14	−0.43	0.20	0.17	0.16	0.10	−0.01	−0.56
	I 親しみのある―よそよそしい	0.10	0.40	0.06	0.20	−0.17	0.12	0.06	0.23	−0.20	0.08	−0.04	0.50	0.04	0.05	0.05	0.04	−0.14
	J 大きい―小さい	−0.05	−0.05	−0.07	0.10	0.01	−0.33	0.13	0.23	0.10	−0.22	−0.66	−0.16	0.10	−0.13	0.00	−0.03	−0.76
	K 評判のよい―評判のわるい	0.07	0.09	0.05	0.44	0.14	−0.50	0.35	0.26	0.14	−0.38	−0.27	−0.03	0.08	0.39	0.03	−0.05	0.14
	L まとまりのある―ばらばらな	−0.40	−0.42	−0.37	−0.26	−0.49	−0.52	−0.32	−0.32	−0.53	−0.53	−0.44	−0.48	−0.24	−0.25	−0.49	−0.48	−0.46
	M 充実した―むなしい	−0.20	−0.31	−0.26	−0.07	−0.41	−0.50	−0.19	−0.10	−0.41	−0.48	−0.46	−0.36	−0.27	−0.08	−0.34	−0.37	−0.46
	N 整然とした―雑然とした	−0.30	−0.32	−0.27	−0.26	−0.27	−0.37	−0.36	−0.19	−0.31	−0.44	−0.30	−0.41	−0.44	−0.08	−0.26	−0.32	−0.24

非常に＋2　かなり＋1　中間－0　かなり－1　非常に－2

		全体	性別 男子	性別 女子	学校類型別 国公立大進学校	学校類型別 私立大進学校	学校類型別 就職進学校	学校規模別 大←→小 LL 9～10学級	L 8学級	M 6学級	S 6学級	SS 2～5学級	県別 秋田県	福島県	富山県	愛知県	静岡県	番外 東京(私立高)
サンプル校数		42	子	子	17	12	13	9	12	6	6	9	9	6	8	9	10	4
Q5	O 広い(+)—狭い(−)	−0.08	−0.10	−0.06	−0.06	−0.04	−0.15	−0.14	0.09	0.25	−0.20	−0.45	−0.32	−0.06	−0.19	0.17	−0.03	−1.16
Q6A 個人的に親しく付きあっている友人の数	(1) いない	8.1	10.5	4.3	9.3	7.3	7.2	8.2	8.8	6.7	7.9	8.3	7.4	10.2	8.3	8.9	6.9	5.1
	(2) 1～3人	35.9	33.3	40.0	36.4	35.4	35.6	36.5	35.5	34.1	31.9	39.4	38.5	40.1	35.0	32.1	35.4	29.2
	(3) 4～7人	37.5	34.9	41.6	37.3	36.9	38.5	37.1	37.8	37.3	42.6	35.0	37.4	32.9	40.4	37.2	38.2	42.2
	(4) 8～12人	10.5	11.4	9.1	10.5	11.5	9.5	11.4	9.4	12.8	9.9	9.6	9.9	9.7	10.5	11.0	11.0	14.2
	(5) 13人以上	7.6	9.3	4.9	6.2	8.4	8.7	6.6	8.0	8.9	7.3	7.2	6.4	7.2	5.6	9.9	8.3	9.3
Q6B 学校のなかの仲のよい友人グループの人数	1 持っていない	15.0	18.9	9.0	17.9	14.8	11.2	14.3	16.9	15.3	14.3	13.4	14.5	17.3	17.8	12.4	14.1	7.1
	2 2～4人	44.8	40.7	51.2	47.6	42.7	42.9	45.9	46.2	42.5	41.3	45.6	47.0	46.9	46.9	40.8	44.1	38.5
	3 5～9人	34.0	32.2	36.9	28.8	35.8	39.7	35.0	30.1	33.6	39.4	35.7	34.0	32.5	29.6	40.1	33.5	44.3
	4 10人以上	5.9	8.1	2.6	5.6	6.5	5.7	4.8	6.5	8.4	4.9	4.9	4.4	3.9	5.5	6.6	7.9	9.5
Q6C 友人グループのできたきっかけ	1 クラスが同じ	61.0	55.4	68.6	60.2	60.9	62.1	66.8	60.1	46.6	66.3	63.6	62.5	61.9	67.2	65.6	51.3	68.7
	2 クラブや部や同好会がいっしょ	23.3	27.0	18.2	26.2	23.6	19.2	19.4	27.3	34.7	16.8	17.1	18.1	23.6	20.8	18.8	32.3	13.3
	3 その他	14.9	16.4	12.9	12.8	14.8	17.7	13.0	11.9	17.6	16.1	18.3	18.5	14.0	11.5	14.6	15.3	17.3
Q6D 友人グループでの話題	1 勉強や入試のこと	13.0	15.9	9.1	20.2	11.6	5.0	15.4	18.0	11.2	9.4	7.3	9.2	12.8	22.2	10.4	11.7	8.1
	2 部やクラブや同好会のこと	9.0	10.7	6.6	9.9	9.5	7.3	8.3	11.4	10.3	7.6	6.2	6.8	11.5	7.7	7.0	11.8	8.5
	3 学校や家での出来事	38.5	27.7	53.1	32.9	40.4	43.9	40.5	34.3	31.8	43.9	43.8	41.5	35.6	37.7	41.8	35.5	34.4
	4 歌手やスターやスポーツのこと	8.0	9.1	6.5	6.4	8.1	10.0	6.4	6.9	10.2	6.9	10.2	7.6	9.2	6.1	7.0	9.9	12.6
	5 異性のこと	17.9	19.6	15.5	15.2	17.4	21.7	15.1	14.7	23.0	21.6	19.2	18.5	18.0	14.3	19.4	18.6	18.5
	6 文学・思想・社会問題	4.6	6.8	2.0	5.4	5.2	2.9	5.2	5.8	4.7	2.5	3.3	6.1	4.6	4.3	5.4	2.9	6.1
	7 その他	6.9	8.3	5.0	7.9	5.7	6.7	6.9	6.8	6.9	6.2	7.4	7.7	6.3	6.1	6.9	7.2	7.1
Q7A 名前を知っている先生の数	1 10人以内	20.0	25.2	22.0	14.9	25.4	22.0	16.7	18.1	22.5	18.4	25.1	26.7	18.6	14.9	20.0	19.3	18.6
	2 15人くらい	36.3	37.7	35.5	38.4	33.9	35.5	33.8	41.6	30.4	35.9	36.2	32.1	40.1	43.1	34.0	34.2	34.7
	3 20人くらい	29.1	24.4	28.0	30.2	28.5	28.0	33.7	28.4	27.4	30.1	25.8	27.6	28.2	28.4	32.4	28.6	21.7

		4 25人以上	14.2	12.3	17.0	15.8	11.8	14.1	15.1	11.6	19.2	15.0	12.4	12.9	12.8	12.6	13.4	17.5	24.8
B	個人的に話したりする先生の数	1 いない	52.8	53.7	51.6	50.3	<53.8	<55.5	53.7	51.4	52.5	48.3	56.6	59.4	58.4	49.9	49.2	49.9	51.6
		2 1～3人	42.5	41.2	44.5	45.3	42.4	38.8	42.7	43.7	41.5	45.0	40.5	36.9	38.9	47.3	44.9	43.5	41.6
		3 4～7人	4.0	4.4	3.3	3.7	3.3	5.0	3.2	4.5	4.7	5.6	2.5	3.1	2.5	2.5	4.8	5.7	4.9
		4 8人以上	0.4	0.5	0.4	0.5	0.2	0.5	0.3	0.3	0.8	0.6	0.3	0.3	0.0	0.3	0.7	0.6	1.5
C	個人的にいつでも相談できる先生の数	1 いない	68.4	68.3	68.6	64.8	<69.1	<72.8	66.9	66.0	69.6	68.5	72.3	71.1	72.5	65.2	66.9	67.8	66.2
		2 1～3人	30.7	30.9	30.4	34.2	29.8	26.6	32.1	32.9	29.3	30.9	27.1	28.1	26.7	34.0	31.8	31.4	31.9
		3 4～7人	0.4	0.4	0.3	0.5	0.4	0.3	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.5	0.1	0.4	0.6	0.3	1.3
		4 8人以上	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.5
D	どういう先生が多いか	1 専門の研究にすぐれている先生	7.4	6.9	8.1	10.1	> 6.2	> 4.6	10.9	8.3	5.6	5.0	4.9	7.4	10.0	8.2	6.2	6.4	7.1
		2 授業に熱心な先生	39.8	41.5	37.1	54.8	>39.3	>19.1	48.6	49.9	35.5	31.7	23.9	35.4	45.5	58.6	31.0	33.1	20.4
		3 何でも気楽に相談できる先生	5.8	9.1	5.4	4.8	2.7	10.2	3.0	8.5	3.6	7.5	6.0	5.5	3.2	3.2	7.6	8.0	6.6
		4 規律にきびしい先生	27.9	26.2	30.5	12.5	<33.5	<44.3	17.5	14.6	37.0	30.6	49.1	31.4	24.1	17.6	30.2	33.1	43.8
		5 その他	17.7	17.8	17.4	16.4	16.9	20.1	18.3	17.4	17.1	24.2	14.2	18.3	15.6	11.1	23.9	18.3	19.0
E	どういう先生に教わりたいか	1 専門の研究にすぐれている先生	12.9	15.6	> 8.8	14.4	14.0	> 9.5	14.5	13.8	11.4	12.0	11.5	15.1	13.6	15.5	9.3	11.7	12.0
		2 授業に熱心な先生	14.4	15.4	13.0	19.9	>12.8	> 8.3	19.1	15.5	14.5	11.6	9.4	11.1	14.0	19.4	13.4	14.3	11.7
		3 何でも気楽に相談できる先生	68.3	63.8	<75.2	60.8	<68.4	<78.8	61.3	65.2	70.6	73.6	75.5	68.2	68.5	61.1	72.0	70.8	70.4
		4 規律にきびしい先生	0.9	1.0	0.7	1.2	0.7	0.6	1.2	1.3	0.2	0.8	0.5	0.9	0.8	1.0	1.0	0.7	0.9
		5 その他	2.7	3.4	1.7	2.8	3.1	2.4	2.8	3.4	2.6	1.5	2.6	3.7	2.3	2.2	3.7	2.0	2.9
F	授業中の先生からの指名	1 必ず名前が呼ばれる	19.1	20.6	16.8	25.0	>17.1	>12.6	14.9	25.7	23.2	15.2	13.6	21.1	18.6	30.4	7.7	18.2	26.3
		2 名前，番号，指差し	80.7	79.2	83.1	74.6	<82.8	<87.3	84.7	74.1	76.6	84.8	86.3	78.6	81.2	69.3	92.3	81.6	73.5
Q8	現在の学校全体の生徒数	1 多過ぎる	18.5	22.3	>12.7	22.7	25.2	> 6.2	35.5	>22.4	>18.4	> 5.8	> 1.8	21.5	33.4	11.9	14.9	16.1	45.4
		2 丁度よい	70.3	67.1	75.3	73.5	69.2	66.8	61.6	74.9	76.7	82.1	62.0	62.9	52.4	81.6	72.5	75.3	46.2
		3 少な過ぎる	10.9	10.3	11.8	3.5	5.4	<26.6	2.5	2.4	4.5	12.0	35.8	15.6	13.7	6.1	12.2	8.3	8.2
Q9		A クラブや部活動に力を入れている	24.2	25.5	22.3	24.0	23.4	25.2	24.0	72.2	27.9	21.9	18.7	20.0	34.5	13.4	16.9	35.5	28.6
		B ホームルーム活動に力を入れている	8.3	9.2	6.8	9.2	6.4	8.9	6.1	12.6	5.9	7.3	7.2	7.1	5.8	5.0	7.3	13.7	11.6
		C 生徒会活動に力を入れている	7.7	8.9	5.8	9.2	4.2	8.8	9.3	6.7	7.4	6.2	9.3	9.7	10.6	3.8	4.0	10.3	11.9

		全体	性別 男子	性別 女子	学校類型別 国公立大進学校	学校類型別 私立大進学校	学校類型別 就職進学校	学校規模別 大 LL 9～10学級	L 8学級	M 7学級	S 6学級	SS 2～5学級 小	県別 秋田県	福島県	富山県	愛知県	静岡県	番外 東京(私立高)
サンプル校数		42			17	12	13	9	12	6	6	9	9	6	8	9	10	4
Q9 あなたの学校の教育面の特色「そう思う」	D 規則を守らせることに力を入れている	49.3	48.0	51.1	28.1	<60.5	68.3	39.6	30.1	62.5	50.5	75.4	53.8	39.8	36.5	58.8	52.7	63.7
	E 教科の指導に力を入れている	47.8	50.4	>44.0	69.1	>47.3	>18.6	55.5	56.2	55.8	35.0	29.1	39.9	40.3	75.8	39.1	43.9	30.5
	F 受験指導に力を入れている	58.7	60.8	>55.7	79.9	>67.4	>20.8	72.6	69.1	72.5	>38.0	30.0	52.7	54.9	84.8	50.5	52.6	13.7
	G 就職指導に力を入れている	11.5	10.0	<13.8	1.2	< 8.7	<28.7	5.8	4.5	6.5	13.4	30.1	21.4	16.8	1.3	6.9	12.3	1.6
	H 選択科目が多い	16.8	16.6	17.2	21.3	15.0	12.4	19.9	18.6	16.7	10.2	14.8	13.8	17.9	22.9	11.1	18.6	34.5
	I 実技や実習や実験が多い	3.2	3.3	3.1	3.2	2.8	3.6	4.2	3.1	2.0	3.6	3.0	5.4	2.5	2.6	2.2	3.1	5.7
	J 個人研究や自主ゼミの時間が多い	1.3	1.6	1.0	1.6	1.2	1.1	2.1	1.3	1.1	0.9	1.0	1.1	2.1	1.5	0.9	1.3	2.2
	K 授業の内容を易しくしている	9.1	9.6	8.4	5.4	7.6	<15.8	6.2	7.9	6.8	<11.7	<14.3	8.7	9.6	6.1	9.4	11.2	14.2
	L 全体の授業時間数少ない	4.0	5.3	2.1	3.6	4.5	4.2	6.2	3.4	3.1	3.3	3.5	4.6	7.6	2.8	2.7	3.6	6.4
	M 能力適性進度に応じたクラス編成	20.8	20.9	20.7	19.3	20.8	23.0	12.3	18.2	38.4	16.6	22.5	19.3	12.7	12.2	15.7	36.3	23.2
Q10 学校で特に力を入れてほしいこと(1つ選択)	A クラブ・部活動	13.0	14.2	11.3	12.7	13.3	13.3	12.9	13.2	12.4	11.7	14.3	12.9	13.5	13.0	15.6	11.0	15.4
	B ホーム・ルーム	7.3	5.3	10.4	6.5	7.7	8.0	7.9	6.4	6.9	9.3	7.2	6.8	7.7	5.6	8.9	7.6	2.4
	C 生徒会活動	6.0	5.3	7.1	3.6	< 8.4	7.1	3.9	4.4	9.9	5.6	7.8	7.4	4.8	4.2	7.1	6.1	7.7
	D 規則	0.9	1.1	0.7	0.8	1.1	1.0	0.8	1.0	0.5	0.9	1.2	0.8	1.5	0.9	1.0	0.7	1.3
	E 教科の指導	12.6	10.8	<15.4	15.0	10.2	11.5	13.6	13.8	9.8	11.4	12.6	10.2	13.6	15.0	11.7	12.8	11.2
	F 受験指導	16.3	19.0	>12.2	19.5	>15.1	>13.0	17.5	18.9	16.8	17.0	10.7	13.8	14.4	20.3	15.7	16.8	17.9
	G 就職指導	4.1	3.2	5.6	0.8	2.3	10.5	1.0	1.4	2.5	7.0	11.0	6.2	5.8	1.4	1.4	5.8	1.8
	H 選択科目	2.8	3.4	2.2	3.0	2.1	3.2	2.7	3.0	2.7	3.3	2.6	4.2	1.0	2.2	2.9	2.8	6.0
	I 実技，実習，実験	7.6	8.3	6.6	8.6	8.5	5.4	8.9	8.3	8.0	5.3	6.4	8.1	7.6	8.7	6.7	7.2	6.9
	J 個人研究，自主ゼミ	9.7	10.9	> 7.9	11.6	11.4	5.5	11.2	11.1	11.3	6.1	6.9	11.6	6.8	10.2	8.9	10.0	9.3
	K 授業の内容易しく	10.0	8.8	<11.9	8.9	9.4	12.1	8.3	9.9	11.0	11.6	10.5	9.3	10.2	8.5	11.4	10.5	7.3
	L 全体の授業数少なく	1.2	1.6	0.6	1.6	1.2	0.7	1.7	1.1	1.0	0.8	1.1	1.3	1.6	1.4	1.0	0.9	2.4

		M 能力別，クラス編成	6.1	6.0	6.3	5.2	7.4	6.1	7.7	5.4	5.7	7.2	5.1	5.2	8.7	6.1	5.4	5.9	6.4
Q 11	親しみを「とても」＋「やや」感じる	A 学校に対して	31.3	32.5	29.8	44.9	22.1	21.2	36.1	43.8	20.1	27.3	20.0	32.2	29.7	42.3	26.0	27.8	22.5
		B 先生に対して	27.0	23.2	16.7	26.2	17.4	16.2	21.5	28.4	16.6	16.8	14.5	19.9	19.6	26.5	18.3	19.6	20.6
		C クラスに対して	53.3	53.6	52.8	54.5	53.8	51.0	54.7	55.9	50.5	53.7	49.9	54.4	54.7	54.5	52.0	51.7	44.9
		D 生徒に対して	46.3	45.3	47.8	47.1	43.0	48.3	44.6	48.6	45.0	45.7	45.3	44.0	40.8	47.8	50.0	46.8	46.0
Q 12	評価「そう思う」	A この学校の勉強は，将来のために役立つ	27.4	29.5	24.2	38.7	24.2	14.7	33.4	31.8	27.0	20.7	18.9	27.8	23.7	39.9	21.1	24.9	19.5
		B 先生の授業に満足している	8.4	9.0	7.4	13.5	5.1	4.4	9.9	11.9	6.7	3.2	6.1	6.4	7.4	15.4	6.1	7.0	5.7
		C 授業以外での先生との接触に満足している	4.9	4.9	4.8	5.0	4.3	5.2	4.1	6.0	4.4	3.5	5.2	4.1	4.5	5.4	4.1	5.8	7.7
		D ホーム・ルーム活動は有意義である	14.9	15.3	14.3	17.9	14.6	11.0	15.5	17.5	15.0	10.8	12.8	14.3	12.3	16.3	13.9	16.4	8.6
		E 部（クラブ）活動は楽しいことが多い	32.9	34.1	31.1	41.0	31.7	22.6	38.1	37.2	35.1	26.1	23.2	29.0	28.0	39.1	33.8	33.1	20.4
		F 学校の勉強以外にもっとしたいことがある	80.8	80.9	80.7	82.4	84.1	75.2	84.1	82.3	81.7	77.5	76.0	81.0	82.0	82.2	78.7	80.5	81.4
		G この学校の規則は多すぎる	31.2	32.8	28.8	14.6	37.1	49.0	20.7	16.8	45.9	30.5	51.5	28.4	29.2	17.5	36.4	40.5	57.1
		H この学校の生徒であることは誇りである	22.3	22.7	21.7	37.1	17.3	6.4	30.7	31.7	17.5	11.9	9.8	20.5	24.2	34.0	16.7	18.5	15.5
		I 現在の高校での生活は楽しい	25.3	23.3	28.3	31.5	21.7	20.0	28.1	32.2	21.4	22.8	17.0	23.3	19.8	30.1	26.3	25.4	23.9
		J できることなら，他の高校にかわりたい	12.8	13.4	11.8	7.2	15.2	18.3	10.5	6.9	13.1	17.8	20.4	12.1	15.9	7.7	14.5	14.0	23.9
		K はやく社会に出て働きたい	17.6	16.7	19.0	10.7	15.8	28.9	13.0	12.9	17.2	17.9	29.3	24.6	15.5	10.0	14.3	21.4	15.1
Q 13	A	学習塾や家庭教師についている	8.7	8.6	8.9	16.1	4.9	1.8	7.9	13.8	9.0	10.2	1.6	4.4	3.4	19.8	6.0	8.7	29.0
	B	友だちとショッピングや街によく出たりする	44.1	38.8	52.1	41.3	47.2	45.0	47.8	43.9	41.9	44.5	41.7	50.7	45.0	42.7	42.8	40.5	55.5
	C	ラジオの深夜放送やＤＪをよくきく	43.7	47.2	38.4	39.8	46.4	46.6	43.7	41.8	43.9	44.2	45.7	51.8	46.1	35.8	41.8	43.6	49.8
Q 13 F	楽しい時間	1 学校にいる時間	43.5	38.7	51.0	47.9	38.8	41.9	42.2	50.8	37.9	42.7	39.6	39.6	44.8	47.1	42.9	43.8	22.9
		2 学校外にいる時間	55.2	60.1	47.6	50.5	59.7	57.4	56.0	47.7	60.8	55.9	59.7	59.6	54.5	51.3	54.7	55.4	75.0

		全体	性別 男子	性別 女子	学校類型別 国公立大進学校	学校類型別 私立大進学校	学校類型別 就職進学校	学校規模別 大←→小 LL 9～10学級	L 8学級	M 7学級	S 6学級	SS 2～5学級	県別 秋田県	福島県	富山県	愛知県	静岡県	番外 東京(私立高)
サンプル校数		42	子	子	17	12	13	9	12	6	6	9	9	6	8	9	10	4
Q13 E 学校外の生活の中で一番楽しいこと(自由回答)	1 食事，睡眠	3.8	5.0	1.9	4.1	4.1	3.0	4.3	3.4	5.2	2.7	3.3	4.1	4.3	3.7	2.8	4.0	2.2
	2 テレビ，ラジオ，本	9.2	9.3	9.0	9.9	9.6	7.7	8.6	10.4	10.3	9.0	7.4	8.5	10.1	9.3	8.2	9.9	8.4
	3 友人関係	29.6	25.0	36.7	24.8	29.1	36.7	29.0	25.1	30.1	29.9	35.8	34.1	27.6	25.1	29.1	27.9	30.9
	4 休息	2.2	2.3	2.1	2.0	2.9	1.9	1.7	0.3	2.9	3.0	1.7	2.4	3.0	1.8	1.4	2.7	2.2
	5 音楽	9.2	10.3	7.7	40.3	10.3	> 6.8	10.5	10.3	10.8	7.4	6.2	10.1	10.5	8.6	7.4	9.8	9.5
	6 スポーツ	2.3	3.3	0.6	2.3	2.4	2.1	2.4	1.9	3.0	2.1	2.1	3.3	2.4	2.0	1.2	2.4	3.8
	7 趣味（音楽，スポーツ以外）	12.8	12.1	14.0	13.4	13.7	11.2	12.8	13.5	13.1	12.2	12.1	12.2	12.3	11.6	14.6	13.1	13.9
	8 勉強	0.8	1.1	0.4	1.1	0.6	0.6	1.0	0.7	0.6	1.5	0.7	0.9	0.8	0.7	1.4	0.5	2.0
	9 その他	4.5	1.6	4.3	4.1	4.8	4.7	4.5	3.9	4.6	4.4	5.2	5.5	4.7	3.9	5.0	3.6	3.6
Q14 満足している「とても」＋「まあ」	A 学校のまわりの環境には	40.8	40.3	41.6	46.3	34.6	38.9	41.3	44.6	32.8	39.1	42.2	34.3	43.3	44.9	43.1	39.7	33.2
	B 校舎には	33.7	33.2	34.5	33.3	30.5	37.3	25.3	42.7	35.1	30.1	31.2	22.3	35.3	29.5	41.2	38.9	17.0
	C グラウンドには	32.0	31.3	33.2	33.4	28.7	33.0	27.4	31.7	38.9	33.7	31.0	21.4	25.2	35.2	42.8	32.8	8.9
	D 体育館には	32.7	32.8	32.2	32.4	31.9	33.4	26.4	36.7	39.1	33.3	28.0	23.0	17.5	35.9	42.8	37.1	17.9
	E 図書室には	31.8	30.7	23.5	35.3	32.1	>26.8	35.5	35.8	32.1	29.6	23.4	26.9	33.4	29.5	34.2	34.8	22.4
	F 理科の実験室，実験器具には	25.9	25.3	26.8	29.2	21.1	25.9	27.8	29.5	20.8	24.0	23.9	27.8	31.0	28.9	24.8	20.5	17.4
Q15 A 自由参加の部活動に	1 参加している	61.2	58.3	65.6	58.4	61.1	65.1	50.6	67.7	66.5	63.2	58.4	54.2	55.5	57.3	63.1	70.7	42.3
	2 以前に参加していたが，今入っていない	19.4	20.2	18.1	20.0	20.0	17.9	28.8	15.0	11.3	17.2	22.4	21.3	24.7	22.3	26.3	7.8	26.8
	3 参加したことはない	18.7	20.8	15.6	20.6	18.2	16.5	19.5	16.3	21.7	19.5	18.5	23.5	19.0	19.8	9.9	20.8	30.3

	参加してみたい部	1	文化部	43.1	35.0	54.1	44.0	44.9	40.3	49.3	46.8	42.7	45.7	30.1	48.3	45.7	41.8	33.3	46.4	34.3
		2	運動部	53.9	61.8	43.0	52.5	51.9	57.5	44.4	50.4	53.1	53.1	67.0	46.3	49.9	55.9	63.5	52.2	57.9
		3	その他の部	1.5	1.5	1.5	1.7	1.9	1.1	3.5	1.6	0.5	0.7	1.0	2.9	2.9	0.8	1.5	0.6	5.0
Q15B	部の改善点	1	もっと先生や先輩の指導を多くする	13.1	13.1	13.2	12.5	12.8	14.3	10.9	14.3	13.4	12.8	14.0	12.1	10.2	12.4	17.0	13.1	8.4
		2	施設や設備や用具を充実する	21.7	24.1	18.1	23.3	21.9	19.3	24.0	23.1	22.3	22.0	16.6	19.5	20.2	23.2	22.6	22.3	30.1
		3	部員同士の人間関係をよくする	25.4	20.8	32.4	22.7	26.7	27.8	24.8	24.1	28.8	27.4	14.1	23.1	28.5	20.7	24.3	29.7	16.4
		4	部員の数をもっと多くする	9.1	8.0	10.7	8.0	8.2	11.3	7.6	8.6	6.4	7.6	14.2	13.3	8.7	8.1	8.6	7.1	3.5
		5	部員の数をもっと少なくする	1.1	1.3	0.8	1.1	0.9	1.2	0.6	1.2	2.0	0.5	1.0	0.8	0.5	0.6	0.7	2.2	0.7
		6	いろいろな部や同好会をつくる	9.7	11.1	7.6	8.2	10.0	11.6	9.7	7.3	7.9	11.6	13.4	10.9	9.7	9.3	9.4	9.3	14.4
		7	勉強と両立できるようにする	8.9	9.9	7.4	12.7	8.1	4.4	11.2	9.9	8.5	8.2	5.7	8.6	10.5	13.7	6.5	6.6	9.9
		8	帰宅時間が遅くならないようにする	3.7	4.0	3.2	3.8	3.3	3.9	3.4	4.0	3.3	4.0	3.7	3.0	4.3	3.7	3.8	3.8	4.7
		9	その他	1.8	1.4	2.4	1.4	2.1	2.0	1.4	2.2	1.9	1.4	1·6	1.9	2.9	1.6	1.4	1.4	0.9
Q16A	卒業後の進路の希望	1	就職	13.0	8.9	19.4	0.7	7.5	35.6	4.9	3.6	7.8	17.3	36.4	21.4	20.8	0.3	7.9	16.0	0.7
		2	家業・家の手伝い	0.5	0.4	0.6	0.1	0.2	1.2	0.2	0.4	0.2	0.2	1.5	0.9	0.4	0.2	0.7	0.2	0.0
		3	各種学校，専修学校	8.5	4.9	14.1	0.9	5.9	21.7	3.9	3.8	5.3	13.4	19.9	9.7	12.1	0.4	9.0	11.3	2.6
		4	短期大学	6.7	1.3	15.0	1.7	9.3	11.1	6.0	4.3	7.3	8.7	9.0	6.3	5.8	1.2	12.7	6.8	8.0
		5	4年制大学(私立)	14.8	18.6	9.1	8.4	22.8	16.2	13.2	13.8	26.2	17.2	8.1	11.8	12.6	6.3	17.0	22.8	74.5
		6	4年制大学(国公立)	53.3	63.2	38.3	86.2	49.8	10.5	68.5	71.1	50.5	40.1	21.8	45.8	44.2	90.0	48.6	40.5	7.7
		7	その他	1.5	1.7	1.4	0.7	2.1	2.1	1.0	1.3	1.7	2.0	2.1	2.1	1.5	0.5	2.3	1.2	1.3
B	そこで何をしたいか	1	幅広い教養を身につける	13.8	12.6	16.1	14.5	13.1	12.6	14.3	13.0	15.0	15.0	11.9	13.5	15.0	15.5	9.6	15.3	13.5
		2	専門的な知識や技術を身につける	43.5	42.1	46.1	46.4	42.9	35.1	44.2	45.9	43.5	34.0	42.6	43.7	41.1	45.7	44.1	41.6	38.0
		3	実生活に役立つ知識や技術を身につける	13.6	12.8	15.2	11.8	15.3	16.2	12.0	13.2	13.5	15.0	17.2	14.7	11.9	12.4	16.2	12.7	14.2
		4	青春を楽しむ	17.7	20.1	13.0	17.4	16.4	21.3	17.6	16.5	18.0	23.5	16.3	16.5	17.6	17.7	16.7	19.5	23.0
		5	何となく過ごす	2.6	3.4	1.2	2.6	2.2	3.7	2.4	2.7	2.6	2.8	2.8	1.5	3.1	2.1	3.6	2.9	3.0
		6	わからない	4.4	5.0	3.4	4.7	4.0	4.3	4.6	4.6	3.7	5.7	3.6	4.1	4.4	4.3	5.6	3.8	3.0
		7	その他	1.9	2.2	1.4	1.5	2.7	1.9	1.8	1.8	2.5	1.3	2.1	2.9	2.4	0.9	1.9	2.1	2.3